

HIROSHIMA UNIVERSITY BHS NEWS

Hiroshima University Graduate School of Biomedical & Health Sciences

目次	
Greetings ご挨拶	2
Activities 活動	4
My Motto 座右の銘	5
Research Frontline 研究最前線	6
Prize Winner 各賞受賞者紹介	8
Prize Winner 各賞受賞者リスト	9
Air Mail 広大から海外へ留学している若手の日記	10
Meeting Report 院生及び若手研究者の国際学会参加報告	11
News Digest 最近の新聞記事から	27
Meeting Record 学会等開催記録	35
人事異動	45
Congratulations 大学院修了者一覧	46
平成25年度文部科学省科学研究費補助金等採択一覧	48
平成25年度厚生労働省科学研究費補助金採択一覧	57
平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況	60
平成25年度奨学寄附金受入状況	60
寄贈図書一覧	60
編集後記	61



目次

目次		
Greetings	ご挨拶 「就任のご挨拶」	谷本幸太郎 … 2
Greetings	ご挨拶 「就任のご挨拶」	宿南 知佐 … 3
Activities	活動	茶山 一彰 … 4
	「新しい診療棟の完成にともなう広島大学病院の変化」	
My Motto	座右の銘	杉山 政則 … 5
	「同じ研究を10年続けられれば専門家に、一生続けられれば「大家」になれる」	
Research Frontline	研究最前線	松川 寛二 … 6
	「脳は筋肉血流量を増加させることが可能か？」	
Research Frontline	研究最前線 「染色体異常とゲノム修復機構」	田代 聡 … 7
Prize Winner	各賞受賞者紹介	二川 浩樹 … 8
Prize Winner	各賞受賞者リスト	9
Air Mail	広大から海外へ留学している若手の日記	古庄 寿子 … 10
	「米国フォーサイス研究所留学便り」	
Meeting Report	院生及び若手研究者の国際学会参加報告	11
News Digest	最近の新聞記事から	27
Meeting Record	学会等開催記録	35
人事異動		45
Congratulations	大学院修了者一覧	46
	平成25年度文部科学省科学研究費補助金等採択一覧	48
	平成25年度厚生労働省科学研究費補助金採択一覧	57
	平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況	60
	平成25年度奨学寄附金受入状況	60
	寄贈図書一覧	60
	編集後記	松浪 勝義 … 61
	表紙写真説明	61

ご挨拶



就任のご挨拶

谷本 幸太郎 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯学分野 歯科矯正学 教授

このたび、丹根一夫名誉教授の後任として、広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯科矯正学の教授を拝命し、平成25年7月1日付で着任いたしました。紙面をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。

私は、広島市生まれで、平成4年に広島大学歯学部歯学科を卒業しました。その後、開業医勤務を経て平成7年に広島大学歯学部歯科矯正学講座に入局し、矯正歯科臨床に従事するとともに、顎関節症に関する研究を開始しました。歯科矯正学は、不正咬合ならびに顎顔面領域の健全な成長発育のための治療を行う分野ですが、顎関節症は、咀嚼など口腔機能への影響に加えて咬合状態を変化させ、さらに成長期に発症すると下顎骨の成長への影響や、顎顔面形態や咬合に支障をきたす可能性があることから、歯科矯正学と深い関わりがあります。その発症機構や病態については、研究開始当初未解明であった部分が近年の画像検査機器や分子生物学の急速な進歩により解明され、診断や治療へのフィードバックなど多くの成果が上がっております。今後、顎関節症を随伴する複雑な不正咬合に対して、より安全で精度の高い矯正歯科治療を実現したいと考えております。

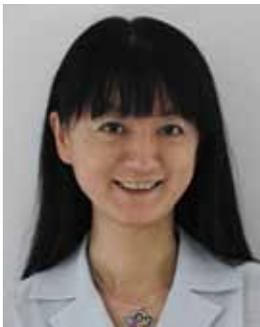
また、平成15年から平成17年にかけて米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部のPamela K. DenBesten教授の研究室に留学したことが契機となり、歯科特有の学問領域であるエナメル質形成に関する研究に着手しました。DenBestenラボでは、生体硬組織形成機構であるバイオミネラリゼーションについてエナメル蛋白を用いた研究を担当しました。蛋白の形状や機能の解析のため無数の溶媒条件を設定し、これを用いて一定の配向性を持ったハイドロキシアパタイト結晶を誘導する試みで、まだ発展途上の分野ですが、将来に大きな可能性を秘めています。現在は、これにエナメル質形成不全症に関する遺伝子解析を組み合わせ、病態の解明とバイオミネラリゼーションを応用した新しい歯科治療技術の開発を進めています。

最近では、先天異常に起因する不正咬合の治療の一環として、口蓋裂・口唇裂治療への骨再生医療応用に関する研究も進めております。各科の皆様のご助力を仰ぎながら、細胞生物学、分子生物学、CAD/CAM技術など最新の研究知見を統合し、より良い治療法が実現できればと考えております。

このような研究を積極的に進めるとともに、これに基づいて矯正歯科臨床をより一層発展させ、良質な医療の提供ができればと思っております。また、学部教育に加えて大学院教育を通じて次世代の歯科医療界を担う若手研究者、矯正歯科専門医を育成し、地域医療に貢献できるよう、努めて参ります。

これまでご支援いただいた広島大学の諸先生にお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



就任のご挨拶

宿南 知佐 医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 歯学分野 生体分子機能学 教授

この度、平成25年7月23日付で、広島大学大学院医歯薬保健学研究院・基礎生命科学部門・生体分子機能学の教授に就任致しました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は平成3年に広島大学歯学部歯学科を卒業後、大阪大学大学院歯学研究科に入学し、平成7年に学位を取得しました。平成10年からは京都大学再生医科学研究所・組織工学部門・生体分子設計学分野の助教授として、平成17年からは准教授として研究と教育に携わってきました。

大阪大学では歯学部生化学教室の開祐司助教授の下で、軟骨細胞の分化誘導系を構築し、軟骨分化の分子機構を解析しました。一連の仕事は国内外で評価していただきましたが、「若いうちに自分の成功体験を捨てる経験をすべきだ」という開先生からの助言もあり、学位論文のテーマから離れ、新しい方向を模索することにしました。その後、平成10年の4月に設立された京都大学再生医科学研究所で開先生が研究室を主宰されることになり、私も助教授として研究室の運営をお手伝いする事となりました。これを契機に、Principal Investigatorとして自分の境地を拓いていく立場を得ることもになりました。平成11年にはHuman Frontier Science ProgramのShort-Term FellowとしてドイツのミュンヘンにあるGSF-Research Center for Environment and HealthのRudi Balling教授の下で、遺伝学的手法を用いた骨格形成の解析について学びました。この滞在は、海外の様々な研究者と知り合い、共同研究に発展させる貴重な機会にもなりました。

京都大学では、軟骨由来血管新生抑制因子コンドロモジュリン-Iの関連遺伝子をクローニングしてテノモジュリンと名付けました。テノモジュリンは、腱や靭帯に特異的に発現する血管新生抑制因子でした。腱や靭帯は、筋肉と骨や硬組織間を連結する組織として重要な役割を果たしていますが、特異的分子マーカーが存在しなかったため、分子レベルでの解析は進んでいませんでした。テノモジュリンの発見は腱・靭帯形成の分子機構を明らかにする糸口となり、今、まさに新しい研究分野が出来つつあります。歯科領域でも、顎関節、歯と歯槽骨を連結する歯根膜など力学負荷のかかる組織の形成・再生の分子機構を明らかにすることは非常に大切です。テノモジュリンはこれらの方面の研究展開にも関連していますので、臨床の先生方とも連携して研究を進めていきたいと考えています。同時に、研究体験を通して学部生や大学院生の教育にも貢献していきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



新しい診療棟の完成にともなう広島大学病院の変化

茶山 一彰

病院長

医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 医学分野 消化器・代謝内科学 教授

平成25年9月20日より新しい診療棟が完成し診療が開始されました。診療棟はグリーンホスピタルを合い言葉に建設、移転がすすめられてきました。グリーンホスピタルのイメージは見た目に優しいグリーンを基調にすること、植物を使った緑化をすすめ、優しいイメージを作ること、患者さんに優しくわかりやすい診療環境を提供すること、環境にも優しい省エネルギー化をすすめることなどになっています。たとえば、患者さんのプライバシーを重視して医科の診察室は個室に、歯科もチェアごとに仕切りを設けています。また、2カ所の「光庭」から自然の光を建物内に導きます。約40種の植物が彩る屋上庭園には遊歩道やベンチを設置。東西の壁面にも常緑つる性樹木のヘデラ（アイビー）を配し、省エネルギーと癒しの空間とする予定です。診療機能としては、医科、歯科の外来を統合、分かりやすい配置にして主な外来診療部門を1～3階にまとめています。1階には内科、外科など、2階には眼科、皮膚科、整形外科、産科婦人科、耳鼻咽喉科など、3階は小児科、小児外科、小児歯科の小児診療部門と歯科部門を置いています。一方、検査部門も血液・尿検査は1階、生理機能検査は2階で行うなど関わりが深い診療科からの移動を考慮しています。そして、診療機能を向上させるため、化学療法室では、抗がん剤治療用ベッドやチェアが従来の14台から28台に倍増し、同じ5階フロアにあるがん化学療法科、緩和ケア外来と連携した診療を進めます。手術センター（4階）は手術室が13室から17室に増えるほか、術後専用の外科系集中治療室（SICU）を新たに6床設けました。中国四国地方で初めてのスポーツ医科学センターも開設し注目されています。このようによりよい環境で、より高度な医療を受けて頂けるよう、広島大学病院はさらに発展していく予定です。



病院前ロータリーから見た新診療棟

My Motto

座右の銘

同じ研究を10年続ければ専門家に、一生続ければ「大家」になれる

杉山 政則

薬学部長

医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 薬学分野 遺伝子制御科学 教授



既に40年余り放線菌研究に携わってきました。そのきっかけとなったのは、今は亡き能美良作教授（広島大学工学部・醗酵工学科）が担当する「生合成化学研究室」に配属されたことです。能美教授は、「結核に有効な初めての抗生物質ストレプトマイシンの発見」でノーベル医学生理学賞を受賞したSelman A. Waksman教授の下に留学され、帰国してから数年後、生合成化学研究室を立ち上げ、ストレプトマイシンの生合成研究に注力されました。

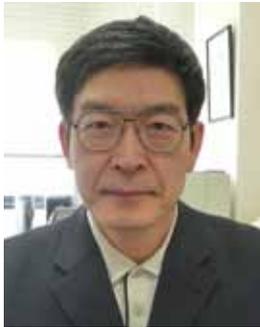
学部生時代、私は、James D. Watson博士が執筆し、当時、国立遺伝学研究所分子遺伝部長であった三浦謹一郎先生等が翻訳された「遺伝子の分子生物学」という科学啓蒙書に出会い、夢中になって読みました。その頃、広島大学原爆放射能医学研究所には、分子生物学の草分け的存在の大澤省三教授が、化学療法・生化学部門を主宰しておられました。私は、分子生物学的研究がしたくて、能美教授の許可を得て工学研究科に籍を置きながら、大澤研究室で酵母の40Sリボソームタンパク質に関する研究を行い、修士論文を書きました。修士課程修了後は、大澤先生と三浦先生が友人であったことも手伝って、故郷（富士市）に近い国立遺伝学研究所（三島市）で博士課程を送ろうと考えていました。ところが、能美教授から、修士を修了したら直ちに助手になるよう言われました。望郷の念が強く、そのお話はお断り申し上げたのですが、「1年でも良いからここにいなさい」と説得され、最終的には受け入れることにしました。4月1日付ではなく卒業式が終わった次の日には文部教官助手となる手続きがなされていたのでした。

助手になった早々、どんな研究をしたいかと能美教授に問われました。ストレプトマイシンはタンパク質合成を阻害する抗生物質です。そこで、私は日ごろから考えていた、「ストレプトマイシンをつくる微生物は、当然、その致死作用から生体防御する機構を備えている。そのメカニズムを知りたい」と答えました。「それは面白いテーマだ」と、直ちに許可して下さった能美教授は、「同じ研究を10年続ければ専門家に、一生続ければ大家になれる」と励まして下さったのです。そのことが、今でも鮮明に心に残っています。そしてこの言葉が研究者としての私の「座右の銘」となりました。

最初にも述べましたが、放線菌の分子生物学的研究を40年続けてきました。その間、タンパク質合成阻害剤以外に、プレオマイシンやマイトマイシンCといったDNA合成阻害剤や細胞壁阻害剤（D-サイクロセリン）をつくる放線菌の自己耐性機構の解明を、X線結晶構造解析法を用いた構造生物学的なアプローチを駆使しながら進めてきました。そのお陰か、平成25年9月に日本放線菌学会から学会賞が授与されました。ちなみに、受賞課題はその集大成となる「放線菌の自己耐性機構に関する研究」でした。

最近、放線菌研究だけではなく、植物由来乳酸菌の基盤研究と実用化研究にも力を注いでいます。乳酸菌の研究は平成15年からスタートしたので、まだ10年程度しか経っておりません。ようやく専門家になりつつあるのかも知れません。残念なことにあと2年半で定年ですが、できることなら大家を目指して研究は継続したいと思っています。

時代が変われば、新しい考え方で研究を進めることが必要です。能美教授は、「新しい手法を積極的に取り入れながら研究を進めなさい」ともアドバイスして下さいました。自分のできなかった研究は、若い人に託すしかありません。人生の充実度は、一生のうち何回感激できたかで決まるものと私は考えています。広島大学教員としての残り少ない期間内に、乳酸菌科学の研究領域で、できる限り多くの感激が得られるよう努力していこうと思っています。



脳は筋肉血流量を増加させることが可能か？

松川 寛二 医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 保健学分野 生理機能情報科学 教授

脳から出力される神経情報によるソフトウェアはヒトや*in-vivo*動物でみられる日常生活時の生理機能調節の多くを担っています。例えば安静時の平均動脈血圧は約100mmHgですが、その50%は自律神経活動が心臓・血管系に作用して心拍出量や血管抵抗を増加させることで維持されています。遺伝子レベルで進捗する様々な生体機能物質の解析に比して、中枢神経系から効果器へ送られる自律神経情報や運動神経情報の解析は困難であり残された課題です。当研究室では、ヒトや*in-vivo*動物から神経情報を計測しながら自律機能・循環機能・運動機能との対応関係を調べています。主な研究テーマは、1) 運動時にみられる循環生理機能の自律神経性調節、2) 中枢性循環調節に関わる神経回路網の同定、3) 随意運動時にみられる中枢性運動制御、4) 運動と認知機能の関連、5) 基礎的研究の成績に基づいたリハビリテーション法の開発です。これらの研究を進めるため、電気生理学および循環生理学的手法・近赤外分光法・経頭蓋磁気刺激法を用いた多面的な角度から、ヒトおよび動物を用いた研究を相互に関連させつつ（これは本研究室の大きな特徴です）、世界で唯一の研究を目指して努力しています。

最近の研究トピックスは『脳は筋肉血流量を中枢性に調節できるか？』という疑問です。筋肉を還流する血流量は筋収縮に伴う代謝性調節を主に受け、自律神経性調節は関与しないと考えられてきました。しかし、我々はヒト右肢運動の開始時に筋血流量が両側性に増加し、この増加はアトロピン（アセチルコリンのムスカリニック受容体遮断薬）で抑制されることを発見しました（図1）。この結果は、大脳皮質運動野から起る随意運動と同時に、他の脳領域から交感神経系へ信号が出力され、それが運動肢のみならず対側非運動肢の筋血流量を増加させることを示唆しています（図2）。このような高位中枢を介する制御を利用したリハビリテーション法を新たに開発し筋血流量や筋生理機能の改善に貢献することを考えています。

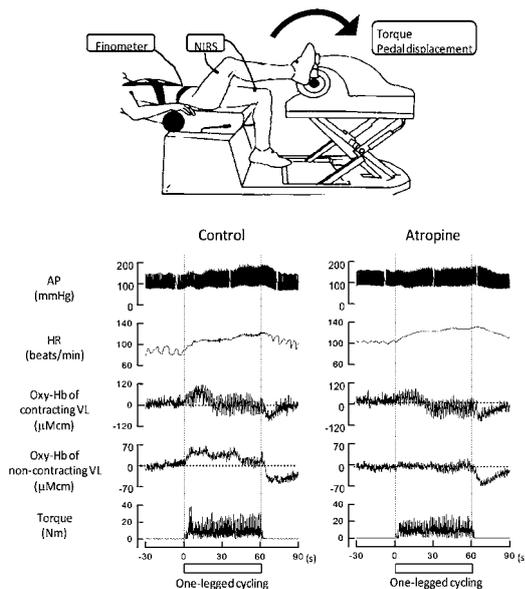


図1 ヒト右肢運動時の両側筋血流量の変化。筋血流量を局所酸素化ヘモグロビン濃度(Oxy-Hb)で測定した。運動開始時にみられた外側広筋(VL)の血流増加はアトロピンにより減少した (Ishii et al. *Physiol Reports* 1: e00092, 2013)。

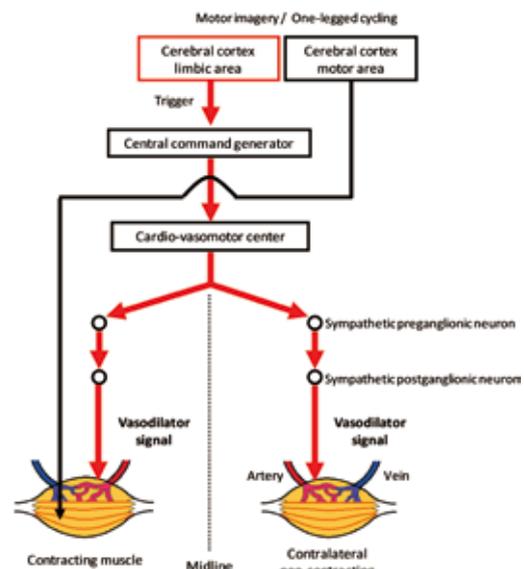


図2 筋血流量の中枢性調節に関する仮説 (Matsukawa et al. *Frontier Physiol* 4: 23, 2013)。



染色体異常とゲノム修復機構

田代 聡 原爆放射線医学研究所 放射線障害機構研究部門 細胞修復制御研究分野 教授

染色体DNAは、日常生活でも太陽紫外線など様々なストレスを受けて「傷」が入っています。放射線被ばくや抗がん剤治療は、染色体DNAにさらに多く「傷」を入れてしまいます。そして、傷ついた染色体DNAの修復に「失敗」して染色体異常が形成され遺伝情報が改変されてしまうことが、白血病や癌の発症に繋がると考えられています。このため、染色体異常が形成されるメカニズムを理解するには、染色体DNAの修復機構を明らかにする必要があります。

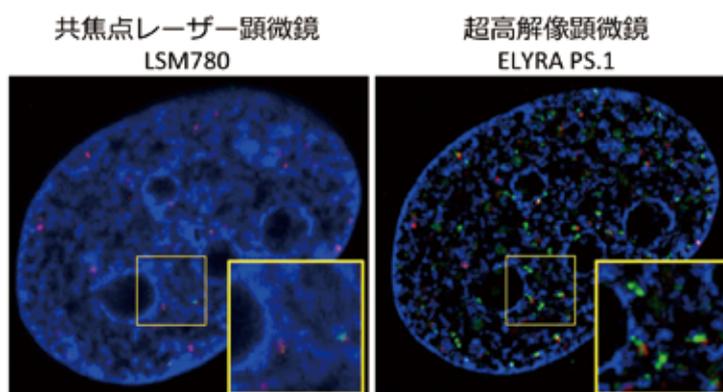
染色体DNAの修復機構を明らかにする必要があります。

DNA二本鎖切断は、放射線に特徴的な染色体DNAの最も重篤な「傷」です。相同組換え修復では、「傷」が入っている場所と同じDNA塩基配列を持つ姉妹染色体などを鋳型にしたDNA組換え反応を使ってDNA二本鎖切断を正確に修復します。私たちは、まず相同組換え修復のキープレイヤーであるRAD51組換え酵素がDNA合成期の細胞で核内高次構造体（核内フォーカス）を形成することを見いだしました。そして細胞核の一部にDNA二本鎖切断を誘導する紫外線レーザーマイクロ照射法を開発して、RAD51がDNA損傷が存在する部位に集積して核内フォーカスを形成することを明らかにしました。ついで、RAD51核内フォーカスの形成と相同組換え機構の活性化には、ヒストンアセチル化酵素TIP60によるヒストンH2AXのアセチル化が関与していること、さらに本年、ゲノム損傷部位での蛋白質のSUMO化修飾機構活性化が必要であることを明らかにすることができました。一方、染色体異常の切断点が集中する領域にはRAD51が過剰に結合することを見いだしています。この一連の研究から、染色体異常の形成には、RAD51を中心とした細胞核構造変換を伴う相同組換え修復が関与していることを明らかにすることができました。

最近、従来の顕微鏡の数倍から数十倍の解像度を持つ超高解像顕微鏡が開発され、今まで見えなかった数十ナノメートルレベルの染色体DNAや核内フォーカスの構造を解析できるようになりました(図1)。そこで私たちは、超高解像顕微鏡を用いたゲノム損傷部位の細胞核構造の動的変化の解析とその数理モデルの構築を進めています。

このような染色体異常形成について基礎的研究を進めるとともに、私たちはこれらの研究から得られた知見をもとにして、新しい放射線被ばく線量の評価法の開発や抗がん剤の作用機構とゲノム修復機構の関連の解明などの医学応用研究に取り組んでいます。

損傷クロマチンとゲノム修復関連蛋白質の局在解析



細胞；ヒト繊維芽細胞株GM0637

赤: RAD51 (ゲノム修復関連蛋白質)
 緑: γ H2AX (損傷クロマチンマーカー)
 青: 染色体DNA

各賞受賞者紹介



平成25年度文部科学大臣表彰 科学技術賞(開発部門)を受賞して

二川 浩樹 医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 歯学分野 口腔生物工学 教授

このたび私こと 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 二川浩樹は、平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞）を受賞いたしましたので謹んでご報告申し上げます。本賞は我が国の科学技術分野において顕著な功績をあげた者を対象とした科学技術賞が昭和34年に設けられ、平成17年からは若手科学者賞が設けられています。また、この他に創意工夫功労者賞、創意工夫育成功労学校賞なども設けられています。

授賞式は平成25年4月16日に文部科学省3階講堂にて厳粛な雰囲気の中で挙行されました。当日、会場での席順は、受賞分野ごとに「あいうえお順」に座り、また、賞状の授与でも、各分野の代表者は席順が一番前の人（「先行の人」）が務め、下村文部科学大臣から代表者に授与されました。その後、文部科学省の事務の方から、順番に1人ずつ賞状が授与されました。

ここ最近では、医歯薬保健学研究院から平成22年度に越智光夫教授、平成23年度に河野修興教授、平成24年度に山脇成人教授と非常に素晴らしい研究をされている先輩の先生方が次々と受賞されており、今回、受賞できましたことを非常に名誉なことと思ひ、また非常に恐縮しております。

今回受賞いたしました「感染の拡大を防ぐ固定化できる抗菌抗ウイルス消毒薬の開発」についてですが、開発いたしましたOctadecyl dimethyl (3-triethoxy-silylpropyl) ammonium chloride（以下Etak）は、手指用消毒薬として用いられている消毒薬部分と物質表面に固定化するエトキシシランを合成し一体化した化合物で、このEtakを0.03~0.3%以上の濃度で使用した場合には、室温において数分程度で金属や布などの表面に消毒薬成分を共有結合により固定化でき、身近なものに抗菌・抗ウイルス加工ができるというものです。現在までに、クラボウからの布類・繊維類は、白衣（アプロン）、スポーツ用品（アシックス）、赤ちゃん用品（Miki House、ベネッセ）として商品化されており、また、エーザイ製薬（マスク防菌24）、ジェクス（業務用Etak液剤）、キャスコ（ゴルフグローブ）、ワカバ（靴下）、今治のタオルなど多くの分野で活用されています。今回の受賞は、ウイルス学の坂口剛正教授から多大なるお力添えをいただいたからこそと確信しております。この場をお借りして、御礼を申し上げます。また、実用化に際しましてお力添えを頂きました化学合成メーカーのマナック、産学・地域連携センター知的財産部門の先生方、霞キャンパス発ベンチャー企業のCampus Medico高田社長に感謝の意を表します。

今後とも、先生方そして企業の方々のお力添えの下、研究面で精進してまいりたいと思っておりますので、これまで同様にご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



賞状とともにいただいた盾です

各賞受賞者リスト

各種表彰等の受賞について 平成25年4月1日～平成25年9月30日

賞の名称	受賞者			受賞理由	授与者	授与年月日
	専攻等	講座等	氏名			
平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門	口腔生物学 (教授)	二川 浩樹	感染の拡大を防ぐ固定化できる抗菌抗ウイルス消毒薬の開発	文部科学大臣	平成25年 4月16日
International Symposium of Aldosterone and Related Substances in Hypertension (ISARSH)2013 Best Young Investigator Award	病院	医療安全管理部 (助教)	沖 健司	International Symposium of Aldosterone and Related Substances in Hypertension (ISARSH)という国際学会において、「miR-21 suppression attenuate cell proliferation and decrease aldosterone production via StAR repression in human adrenocortical cells」の題名で発表を行い、当該研究分野において高く評価されたため。	Executive Vice President / Professor of Medicine, Tohoku University	平成25年 4月28日
平成25年度日本神経化学会奨励賞	医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門	分子細胞情報学 (助教)	齋藤 敦	研究課題「小胞体ストレス応答による中枢神経系細胞の分化制御メカニズム」は神経化学研究の進歩に寄与すること顕著であり、かつ今後の発展が大いに期待されるため。	日本神経化学会理事長	平成25年 6月21日
第5回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会ベストポスター賞	医歯薬保健学研究科 保健学専攻	運動器機能医科学 (博士課程後期2年)	馬 玉宝	ACL再建術後におけるバランス機能に関して検証したところ、DB再建術の機能回復は、他の術式よりも優れていた。このことは、リハビリテーションの予後予測において重要な情報となり、受賞に至ったと考えられる。	第5回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会会長	平成25年 6月22日
International Congress of Toxicology ICT XIII Junior Fellowship	医歯薬保健学研究科 薬科学専攻	生体機能分子動態学 (博士課程前期2年)	Contu Viorică Raluca	カテコール型低分子神経毒DHTBのUCH-L1タンパク質への結合とパーキンソン病との関連に関する研究が、優秀で将来性があると認められたため。	President. IUTOX	平成25年 7月4日
32th Annual Meeting on Environmental Pollutants: Chalk Talk 2013優秀発表者賞	医歯薬保健学研究科 薬科学専攻	生体機能分子動態学 (博士課程前期1年)	杉山 千尋	AlphaLISAテクノロジーを用いたGluR2タンパク質発現の新規定量法に関する研究が、優秀で将来性があると認められたため。	32th Annual Meeting on Environmental Pollutants: Chalk Talk 2013実行委員長	平成25年 7月5日
第32回分子病理学研究会最優秀ポスター賞	医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻	分子病理学 (博士課程2年)	後藤 景介	第32回分子病理学研究会(2013年7月20-21日、奈良県)でポスター演題として発表した「CAST法を用い同定したOligophrenin-1の前立腺癌における発現と機能解析」に関する研究が特にすぐれていると認められたため。	第32回分子病理学研究会会長	平成25年 7月21日
第26回日本顎関節学会学術大会ポスター発表最優秀賞石橋賞	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	歯科矯正学 (博士課程4年)	蘇 少卿	第26回日本顎関節学会学術大会において研究内容の発表を行い、当該研究分野において高く評価されたため。	一般社団法人日本顎関節学会理事長、大会長、学術大会運営委員長	平成25年 7月21日
平成25年度NAISTバイオ学賞	医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門	分子細胞情報学 (教授)	今泉 和則	バイオサイエンス研究において独創的な研究に従事し優れた研究業績を挙げ奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科の充実発展に寄与したため。	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科長	平成25年 8月6日
第24回日本消化器癌発生学会優秀演題賞	医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻	分子病理学 (博士課程4年)	Htoo Zarni Oo	第24回日本消化器癌発生学会総会(2013年9月5-6日、金沢市)で口演した「CAST法を用い同定したOligophrenin-1の前立腺癌における発現と機能解析」に関する研究が特に優れた演題と認められたため。	第24回日本消化器癌発生学会総会会長	平成25年 9月5日
日本放線菌学会賞	医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門	遺伝子制御科学 (教授)	杉山 政則	受賞テーマ「放線菌の自己耐性機構に関する研究」が、放線菌研究の分野で、学術上及び産業上、特に優秀な研究業績を納めたものと評価されたことから学会賞の授与に至った。	日本放線菌学会会長	平成25年 9月5日
優秀研究論文賞	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門	生体構造・機能修復学 (講師)	下江 宰司	平成24年中に発刊された日本歯科技工学会雑誌の論文の中で、特に優秀と認められたため。	一般社団法人日本歯科技工学会会長	平成25年 9月8日
若手研究者優秀論文賞	医歯薬保健学研究科 口腔健康科学専攻	生体構造・機能修復学 (博士課程後期2年)	岩畔 将吾	平成24年中に発刊された日本歯科技工学会雑誌の若手の論文の中で、特に優秀と認められたため。	一般社団法人日本歯科技工学会会長	平成25年 9月8日
優秀発表賞	医歯薬保健学研究科 口腔健康科学専攻	生体構造・機能修復学 (博士課程後期2年)	岩畔 将吾	日本歯科技工学会第35回学術大会(第5回国際歯科技工学会、韓国)において英語でポスター発表を行い、その内容が高く評価されたため。	一般社団法人日本歯科技工学会会長	平成25年 9月8日
フォーラム2013衛生薬学・環境トキシコロジー実行委員長賞	薬学部	薬学科6年	石田 慶士	グルタミン酸受容体が関与する鉛の神経毒性メカニズムの解明に関する研究が、優秀で将来性があると認められたため。	フォーラム2013衛生薬学・環境トキシコロジー実行委員長	平成25年 9月13日
平成25年度日本医療薬学会学術賞	病院	薬剤部 (薬剤主任)	池田 博昭	「緑内障点眼薬の薬物相互作用の解明と点眼療法のコスト削減分析の確立」の研究について、医療薬学領域の研究業績に係る卓越性及び医療薬学の発展への貢献度が認められたため。	一般社団法人日本医療薬学会会頭	平成25年 9月22日
3rd International Orthodontic Conference of ODOAN First Prize of Poster Presentation	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	歯科矯正学 (博士課程2年)	岡本 友希	ラット変形性顎関節症モデルにおけるメカノレセプターと炎症性メディエーターの発現に関する研究発表について、学術性・独創性・表現法が高く評価されたため。	President, 3rd International Orthodontic Conference of ODOAN	平成25年 9月22日

広大から海外へ留学している若手の日記



米国フォーサイス研究所留学便り

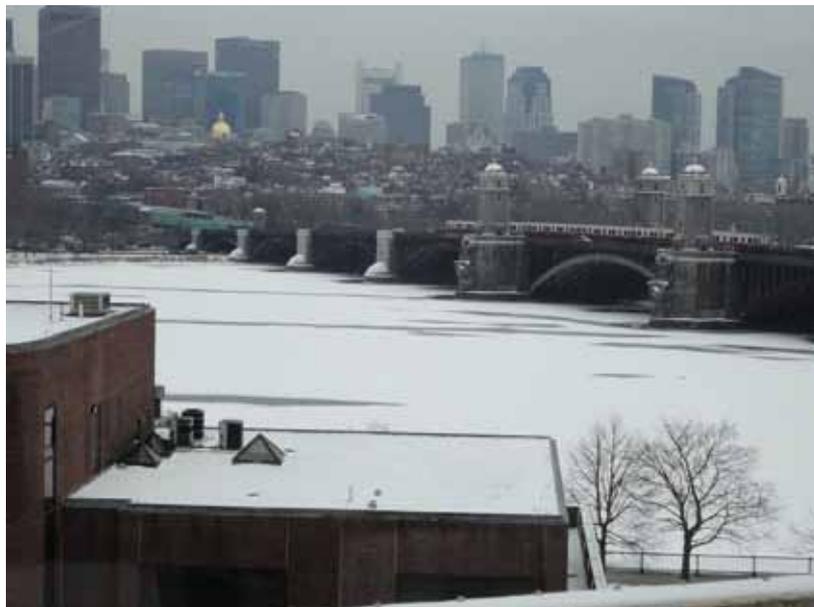
古庄 寿子 医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 歯学分野
口腔顎顔面病理病態学 助教

私は現在、米国マサチューセッツ州ボストンのForsyth研究所に留学しております。ボストンは東海岸の北の方、ニューイングランド地方の都市で、緑の多い美しい街です。日本と同様に四季があり、季節の移り変わりを楽しむことができます（冬は本当に寒いです）。アメリカでも有数の学術都市であり、研究所の近くにもハーバード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする有名な大学が多数あります。

私の留学先であるForsyth研究所は、世界で唯一歯科領域に特化した珍しい研究所です。私は、研究所で佐々木元先生のご指導のもと、ノックアウトマウス第1臼歯菌性感染モデルを使用し、歯周病原細菌*P.gingivalis*菌性感染による非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）増悪への影響のメカニズムについて主に研究を行っています。また、研究室では根尖病巣の形成、治療課程における好中球・マクロファージの役割について研究をされており、留学期間中には自分の主研究のみならず、他のテーマの研究メンバーにも加えていただき、動物モデルの作成など実験の手技的な事のみならず、論文作成に関する事やアメリカで職を得る事の楽しさ、厳しさなど、様々なことを教えていただいています。研究所にはアメリカのみならず、多くの国からくるスタッフで構成されており、研究の合間やランチタイムでの会話は他国の文化・習慣を垣間見ることもでき、非常に新鮮です。セミナー等も充実しており、研究に没頭できる時間を海外で過ごせた事は私にとってとても意味のある事だと感じています。

アメリカでの生活ですが、日本を発つときは不安なことばかりで、1年間生活できるのか、と思っていましたが、アメリカのいわゆる「大雑把」な文化に、驚きつつも慣れ、現在では楽しんで生活しております。また、ボストンは学術都市ということもあり、他分野の研究者が集まる交流会もあり、多くの友人もできました。研究だけでなく、自分の中で物事に対する視野を広げる事のできる「濃い」経験をさせて頂いていると思います。

このたびの留学は自分の人生の中で大変貴重な時間になっています。最後になりましたが、このような機会を頂き、高田隆教授ならびに諸先生方に、心より御礼申し上げます。



チャールズ川凍結！（研究所より撮影）

院生及び若手研究者の国際学会参加報告



SIU 2013 (バンクーバー) に参加して

後藤 景介 医歯薬学総合研究科 博士課程3年 創生医科学専攻 分子病理学研究室

SIU 2013が9月8日から12日にかけてカナダのバンクーバーで開催されました。SIUとはSOCIÉTÉ INTERNATIONALE D'UROLOGIE (国際泌尿器科学会)を指し、年に1回のAnnual Meetingであり毎年盛大に催されます。メイン会場はWater Front地区にあるVancouver Convention Centreで、非常に綺麗で洗練された建物でした。広大な会場でのLive Surgeryが目玉企画の一つであり、英語の聞き

取りが苦手な私にとって、手術のデモンストレーションは言葉なしでも伝わってくるので分かりやすく、大変勉強になりました。近年は急速に普及しつつある手術支援ロボットDaVinciを用いた手術ではテクニックに感銘を受けました。また、Oral Presentationでは前立腺がんや尿路上皮がんの最新の知見を勉強しました。本学会のポスターは全てePosterであり、会場では液晶モニターを操作するだけで展示ができるというシステムでした。Moderated Poster Sessionでは白熱した議論がなされており、私の発表に対して反響があり、手応えを感じることができました。今回の学会に参加して、海外へも目を向ける良い機会になりました。これからも研究に励むとともに、その成果を積極的に発信していきたいと思っております。



Digestive Disease Week 2013(オランダ)に参加して

寺崎 元美 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻
消化器・代謝内科学研究室

2013年5月19日から21日までOrlando, Florida, USAのOrange Country Convention Centerで開催されたDigestive Disease Week (DDW) 2013に参加してきました。DDWは消化器内科・肝臓病・内視鏡学・消化器外科合同開催の世界最大の学会であり、世界各国から14000人以上の参加がありました。4日間で計982の口頭発表、4000以上のポスター発表、1000以上の教育公演といったかなり内容の充実した学会でした。

今回発表させていただいたのはポスターセッションのClinical部門で‘Risk factors for delayed bleeding after endoscopic submucosal dissection for colorectal neoplasms’として大腸粘膜下層剥離術後出血の危険因子についての検討を報告しました。危険因子として局在(直腸病変)および粘膜下層の高度線維化が後出血の危険因子として報告しました。海外の方からは線維化の定義や内視鏡的止血手技などの質問が寄せられ有意義な討論が出来ました。今回の経験をもとに今後の研究テーマについて検討していきたいと考えております。



会場の風景



第33回国際泌尿器科学会（バンクーバー）に参加して

正路 晃一 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻 腎泌尿器科学研究室

本年9月8日から12日にかけて開催された第33回国際泌尿器科学会に参加する機会をいただきましたので、ご報告させていただきます。

開催地バンクーバーはカナダの西の玄関口となる港湾都市ですが、大都市でありながらも緑が多く自然を身近に感じられました。またもちろん英語が中心ですが、他の言語の看板も目立ち、これが話に聞くサラダボールかと得心がいく街並でした。

学会場であるコンベンションセンターは海に面し、近代的ながらも周囲の美しい景色と馴染み、落ち着いた雰囲気でした。学会口演では、演者に著名な方々が並び、研究のトレンドをはじめ、最新の治療や治療戦略を学ぶことができました。私自身は“Restoration of Fibroblast Growth Factor Receptor 2 IIIb Enhances the Chemosensitivity of Human Prostate Cancer Cells”という演題で、繊維芽細胞成長因子受容体2 IIIbが前立腺癌の上皮間葉移行や化学療法感受性に影響すること及びそのメカニズムについて発表させていただきました。発表自体は大過なく終えることができましたが、英会話力の向上が必要であることを再確認することとなりました。

最後となりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました松原昭郎教授、本学海外発表支援関係者の皆様にこの場を借りて心より御礼申し上げます。



ARVO（シアトル）に参加して

平田 潤子 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻 視覚病態学研究室

2013年5月5日から9日にかけてアメリカのシアトルで開催された、ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology) に参加し、ポスター発表を行いました。世界で最も大きな眼科・視覚に関する学会です。

日本では世界に先駆けて、加齢黄斑変性に対してiPS細胞による治療が始まろうとしています。治療への期待は大きく膨らみますが、治療により見えるようになるまでにはまだ年数がかかりそうです。加齢黄斑変性は様々な要因により発症すると考えられていますが、そのひとつに光障害などの酸化ストレスがあります。今回私たちは、加齢黄斑変性において重要な網膜色素上皮細胞に対して酸化ストレスを与え、細胞同士の接着への影響を検討し発表しました。学会では、加齢黄斑変性に関連した発表は基礎研究から臨床研究まで多岐にわたり、数多くされていました。まだまだ、不明な点が多い疾患です。

会場では様々な国籍の方がラフな格好で参加し、活発な討論がなされていました。予想以上の質疑応答があり、慣れないたどたどしい英語で可能な限りシンプルに説明しようと心がけましたが、英語力のなさを痛感しました。緊張しながらも楽しい学会でした。

発表に際してご指導いただきました医局の多くの先生方、また、海外発表のご支援をいただきました大学の皆様、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告

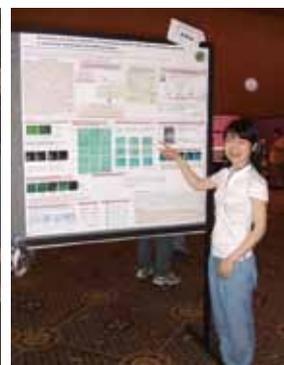


2013 In Vitro Biology Meeting(プロビデンス)に参加して

田口 有紀 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻
分子口腔医学・顎顔面外科学研究室

この度、アメリカ合衆国の東北部に位置するロードアイランド州プロビデンスで開催された In Vitro Biology Meeting (2013.6.15 ~ 6.19) に参加し発表する機会を与えていただきました。プロビデンスは港湾・学術都市として栄えており、イギリスの植民地時代の名残からヨーロッパ調の重厚感のある建物の多い落ち着いた雰囲気のある町でした。学会では口演、ポスターともに発表者と参加者が熱心にディス

カッションを行っており、ラフだけれど熱気のある雰囲気が非常に印象的でした。自身の発表ではうまく質問に答えられなかったり、また聞きたいことが伝わらなかったりと拙い英語力を痛感しました。14時間の時差ぼけで睡魔と闘いながら口演を聞くこともありましたが、アメリカだけでなくアジアやアフリカからの学生も多く参加されており、各国の研究事情なども情報交換をすることができました。海外の学会に初めて参加し、英語での抄録、ポスター作りから始まり、慣れないことばかりで、岡本哲治教授、山崎佐知子先生の温かいご指導のおかげでなんとか発表することができました。ありがとうございました。



第113回 American Association of Orthodontists(フィラデルフィア)に参加して

柄 優至 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 歯科矯正学研究室

2013年5月3日から5月7日までアメリカ合衆国のフィラデルフィアにおいて行われた第113回 American Association of Orthodontistsに参加しました。発表内容は“培養細胞におけるEr:YAG laserとNd:YAG laser照射の影響について”です。矯正歯科治療において歯の移動の加速は、治療期間の短縮に繋がり、我々は以前の研究でラットにおける実験的歯の移動に、レーザーを照射することで歯の移動

量が増加したことを確認しました。そこでレーザー照射が、骨芽細胞様細胞にどのような効果があるかを骨代謝の観点から検討を行いました。その結果、両レーザーともにAlkaline Phosphatase、OPG (osteoprotegerin)、RANKL (Receptor Activator of Nuclear Factor-kappa B Ligand) の遺伝子発現が上昇しました。またRANKL/OPG比も上昇したことから破骨細胞が活性化している可能性が示唆されました。

同学会で低出力レーザー療法や歯の移動の加速についての口演も多々あり、興味深いものでした。また商社展示では、振動により歯の移動を促進させるAcceledentという商品など最先端のツールを知ることができ大変有意義な時間を過しました。





第24回国際小児歯科学会大会（ソウル）に参加して

五藤 紀子 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 小児歯科学研究室

私は2013年6月12日から6月15日にかけて韓国で開催された第24回国際小児歯科学会大会に参加しました。今回私は「Genome-wide analysis of MSX1 target gene in stem cells from human exfoliated deciduous teeth」という演題でポスター発表をさせて頂きました。我々はヒト乳歯歯髄幹細胞（SHED）におけるホメオティック遺伝子MSX1遺伝子の発現が高いことを発見した後、MSX1の標的遺伝子についての解析を行っています。今回、標的遺伝子の特定において興味深い結果を得ることができたので、その成果を報告させて頂きました。学会大会中のポスターセッションでは、8分間でプレゼンテーションと質疑応答を行いました。多く質問を受け、様々な国から来た歯科医師と自分の研究について質疑応答を繰り返すことで、彼らがどのような点に着目しているのかが分かり興味深かったです。しかし、同時に自分の英語力の低さも実感し、これまで以上に英語学習の必要性を感じました。韓国に行き、多くの人と様々な意見を交換することができ、非常に有意義でした。今後は、今回の渡航経験を機に今まで以上に研究活動、英語学習の向上を目指したいと思います。



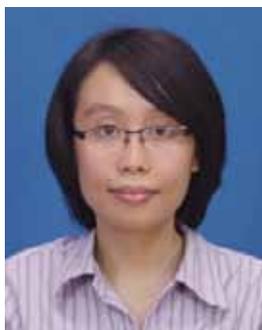
第23回アジア太平洋肝臓学会議（シンガポール）に参加して

山田 裕子 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻 疫学・疾病制御学研究室

2013年6月7日から9日に、シンガポールで開催された第23回アジア太平洋肝臓学会議（23rd Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver）に参加しました。私は、“The sero-epidemiological study on hepatitis viral infections among adults in Cambodia”という演題で、当研究室で2009年度から実施しているカンボジア王国における肝炎ウイルス感染状況の把握のための血清疫学的調査の成果をポスター発表しました。調査により明らかになった、カンボジア王国の成人におけるB型およびC型肝炎ウイルスのキャリア率や、肝炎ウイルス感染のリスクファクターに関する報告をし、アルメニアや中国などの海外の研究者と意見交換しました。他国の状況を聞いたり、貴重なアドバイスをいただいたりすることができ、非常に有意義な機会となりました。また、学会を通じて、特にアジアでは肝炎が重要な健康問題であり、その対策のために、適切なサーベイランスによりエビデンスとなるデータを得ることが重要であることを再認識しました。この経験を今後の研究に生かしたいと思います。

最後になりましたが、海外発表という貴重な機会を与えてくださった田中純子教授及び海外発表支援に関係される先生方に深謝いたします。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告

**IADR-APR (バンコク) に参加して**

Veronica Sainik Ronald 医歯薬学総合研究科 博士課程3年 創生医科学専攻
生体分子機能学研究室

First of all, I would like to thank all members of Department of Dental and Medical Biochemistry, Hiroshima University, Prof. Dr. Kanematsu Takashi, Dr. Kato Yukio and Dr. Kanawa Masami for giving me the opportunity to attend the 2nd meeting of the International Association for Dental Research Asia Pacific Region (IADR-APR) in Bangkok. It was a very enriching experience for me to attend this conference. Many dentist and researcher representatives of universities/institutions were present from Nationwide not only from Asia Pacific Region. High quality research papers were presented, with topics covering topics from healthy teeth to human diseases, biomaterial and tissue regeneration and etc. It was great to see so many professionals from different disciplines together in one place, sharing their knowledge and ideas to others.

**Digestive disease week 2013(オランダ)に参加して**

杉山 晶子 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻 総合診療医学研究室

2013年5月18日から21日にかけて米国フロリダ州 Orlandoで開催された、Digestive disease week 2013 (DDW 2013) に参加させていただきました。DDWは消化器病週間と言われ、肝臓病学会 (AASLD)・消化器病学会 (AGA)・消化器内視鏡学会 (ASGE)・消化器外科学会 (SSAT) という4つの学会の総会を同時に行う、世界でも大きな学会のひとつであり、世界中から発表演題が応募されます。その中で私は“Profibrotic effect of periostin through a positive feedback loop that amplifies and maintains the activation of hepatic stellate cells.”という演題で、ポスター発表を行いました。さまざまな慢性肝疾患の終末像である肝硬変症は、肝臓の線維化が進展することで生理機能が維持できなくなった病態で、その治療開発には肝線維化の病態解明が重要なカギとなります。本研究では、肝臓外組織において創傷治癒や線維性疾患の病態形成への関与が報告されているペリオスチンという分子が、肝線維化において中心的な役割を担っている肝星細胞の活性化を増幅し、肝線維化に関与している可能性を示しました。今回はPOSTER OF DISTINCTIONという賞もいただくことができ、多くの方が質問やディスカッションに来てくださいました。説明したいことが上手く伝わらず、悔しい思いもしましたが、今後の参考になる質問や意見なども得られ、とても充実した時間を過ごすことができました。次回、またさらなる研究成果を発表することができるよう、日々の研究を大切にしたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与え、指導して下さった田妻進教授、菅野啓司講師をはじめとする先生方、ならびに海外発表を支援していただきました医歯薬保健学研究科に心より感謝致します。



European Cancer Congress2013(アムステルダム)に参加して

吉屋 智晴 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻 腫瘍外科研究室

今回の国際学会参加および発表は、私にとって全て初めての経験でした。連日朝早くから夕方遅くまで行われていた様々なシンポジウムやワークショップ、教育セッションに参加し、最新の知見を得ると共に、自分自身の知識を整理することができ、非常に有意義な参加となりました。

ポスターセッションでは、「呼吸に伴う横隔膜の運動の影響で、肺癌（腺癌）の局在部位によって、PET/CTで測定された腫瘍の悪性度を反映するSUVmax値に差が生じる」ことについて、多施設共同研究の結果を発表させて頂きました。ポスター内容を熟読して下さった数名の海外医師の方々と議論することができましたが、その中には、本研究の課題と今後の方向性を示唆してくれるものもありました。具体的には、肺腺癌のなかでもどういった組織像を呈するものが、より呼吸の影響を受けやすいのかといった質問や、呼吸に伴うSUVmax値の差を補正するために必要なPET/CTの撮影方法に関するアドバイスをいただきました。

オランダのアムステルダムという風光明媚な国際都市で開催された本学会に参加でき、様々な刺激を受けることができました。今回の経験から得られた成果や課題を、今後の様々な研究の礎としていきたいと思えます。学会参加に関して、ご助力いただいた関係各位に、心より御礼申し上げます。



The XIII International Congress of Toxicology 32th Annual Meeting on Environmental Pollutants; Chalk Talk 2013(ソウル)に参加して

杉山 千尋 医歯薬保健学研究科 博士課程前期1年 薬科学専攻
生体機能分子動態学研究室

私は2013年6月30日から7月4日までソウルのCOEXにて開催されたThe XIII International Congress of Toxicologyと、7月4日から7月6日までソウル大学で開催された32th Annual Meeting on Environmental Pollutants; Chalk Talk 2013に参加させて頂きました。私にとって初の学会発表であり、かつ国際学会であったため、一日一日が大変刺激的であり、勉強になりました。私の専門は神経毒性であり、特に環境化学物質長期曝露による哺乳類の脳への影響を研究しています。研究の中心となるのは中枢神経系で重要な役割を果たすグルタミン酸受容体のひとつ、AMPA受容体のサブユニットGluR2です。GluR2が減少することで起こる毒性メカニズム解明や、GluR2減少を引き起こす化学物質の簡便探索法の構築を行っています。The XIII International Congress of ToxicologyではPFOSという哺乳類の脳で検出されている工業化学物質によりGluR2発現が減少すること、また現段階で明らかにしたそのメカニズムについてポスター発表を行い、Chalk Talk 2013ではAlphaLISARを利用した新規GluR2簡便測定系の構築について口頭発表を行いました。各学会にて、他分野の方からの意見を頂き、また自分の研究について客観的に考える良い機会となりました。今回の学会参加で得られた経験を今後の研究に活かしていきたいと思えます。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告

43rd National Organic Chemistry Symposium(シアトル)に参加して

安藤 雅史 医歯薬保健学研究科 博士課程後期2年 薬科学専攻 創薬合成化学研究室

平成25年6月23日から27日まで、アメリカ合衆国ワシントン州シアトルにあるThe University of Washingtonで開催された、43rd National Organic Chemistry Symposiumに参加しました。この学会は、1925年の第1回以来2年に一度アメリカで開催されてきた歴史ある学会です。

私は「Generation and Trapping of *N*-Silyl Ketenimines (シリルケテンイミンの発生と捕捉)」という題目でポスター発表を行いました。シリルケテンイミンは構造的に軸不斉を有する可能性があります、立体化学的に非常に不安定であり、これまでに光学活性なシリルイミンを発生させることに成功した例はありません。われわれは、低温条件であれば光学活性なシリルイミンを発生させることができるのではないかと考え検討を行った結果、これまで室温での合成例しかなかったシリルケテンイミンを-100℃で発生させ、種々の捕捉剤と反応させることに成功しました。ポスター発表では、つたない英語ながらも多くの研究者と有意義な議論を交わし、貴重な意見を得ることができました。また、発表以外でも海外の学生や研究者と交流を深めることができました。

最後に、このような海外発表の機会を与えてくださった武田敬教授、ならびに海外発表支援をしていただいた医歯薬保健学研究科に感謝致します。



Symposium of Yoga Therapy and Research(ボストン)に参加して

野坂 見智代 医歯薬保健学研究科 博士課程後期2年 保健学専攻
精神機能制御科学研究室

2013年6月11日から16日までボストンにて The Front Line of Yoga Research をテーマに国際学会が開催されました。近年、アメリカではヨーガの人気は高く、統合医療の一つとして国家プロジェクトに位置づけられています。世界各国から大学研究者や医師、ヨーガ療法士など、連日約500人の参加がありました。私は、岡村仁教授との共同研究 Integrated yoga therapy in a single session as a stress management technique in comparison with other techniques をポスター発表したところ、ヨーガに興味関心があるとは限らない一般教職員を対象としたことや、年1回限りの人間ドック形式において初心者にも馴染みやすいプログラムであること、指導の留意点の記載についても好評価をいただきました。正のフィードバックを積極的にする方々の姿勢は、新鮮であり、今後の研究活動への励みとなりました。懇親会では国際学会を主催したInternational Association of Yoga Therapists (IAYT) の副理事長と交流する中、著書を謹呈いただきました。日本からは、日本ヨーガ療法学会 (Japan Yoga Therapy Society, JYTS) の理事長らも視察のために参加しており、IAYTとの交流開始の交渉場面にも同席させていただきました。この他、今年のJYTS全国大会での招待講演者、ボストン大学医学部教授 V.D.KOLK 宅への招待もご一緒させていただきました。貴重な体験ができましたのは、積極的な国際学会参加へのご支援の賜物です。深く感謝申し上げます。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告



WCPT-AWP & ACPT Congress 2013(タイジョン)に参加して

谷本 研二 医歯薬保健学研究科 博士課程後期1年 保健学専攻
生体運動・動作解析学研究室

この度、私は2013年9月5日から9日にかけて台湾の台中で開催されたThe 6th Asia Western Pacific Region of World Confederation for Physical Therapy & The 12th International Congress of Asian Confederation for Physical Therapyに参加し、「Characteristics of the external knee adduction moment during stair descent in patients with knee osteoarthritis」という演題で、ポスター発表を行いました。

この学会はアジア地域における理学療法の国際学会です。私は変形性膝関節症患者の動作分析をテーマとして研究をしており、今回は降段動作時の膝関節に加わる力学的ストレスの特徴について発表しました。私にとっては、初めての国際学会での発表であり、英語でのプレゼンテーションや質疑応答には難しさも感じましたが、何とかやり遂げることができました。一方で、他国の参加者達のプレゼンテーションの質の高さに感銘・刺激を受けました。

また、私が博士論文のテーマとして考えている、動作の変動性や円滑性、協調性についての研究発表が数題あり、その発表者の方達とのディスカッションを通して、同じような研究テーマの方達がどのような考えを持ち、どのような指標を用いてその考えを示しているかを知ることができました。今後の研究の参考となる知識が得られ、非常に有意義な学会となりました。

今後、この学会で得られた知識や刺激を基に、博士課程において質の高い研究だけでなく、質の高いプレゼンテーションを国際学会の舞台で行えるよう努めていきたいと思えます。

最後になりましたが、国際学会に参加するにあたり、指導して頂いた先生方、またご支援を頂いた医歯薬保健学研究科に感謝申し上げます。



International Society for Stem Cell Research 11th Annual Meeting(ボストン)に参加して

上床 裕之 医歯薬保健学研究科 博士課程前期2年 保健学専攻 生体環境適応科学研究室

平成25年6月12日から15日にかけて米国ボストンで開催されたInternational Society for Stem Cell Research 11th Annual Meeting (国際幹細胞学会) で発表する機会を頂きました。この学会は、世界中の幹細胞研究者が集まり(参加者4000人)、講演やポスター発表が行われ、最新の研究成果について活発な情報交換が行われます。本学会の理事長は、ノーベル賞を受賞された山中伸弥先生で、ユーモアも交え

ながら、iPS細胞研究の現状についてシンポジウムで講演されました。今回、私も自分の研究「頭蓋骨由来ヒト骨髄間質細胞の神経分化誘導」をポスターで報告して来ました。私は、初の海外発表、それも世界の一流研究者を前にして英語で発表することは大変緊張しました。お陰様で世界の幹細胞研究の動向を肌で感じることができたこと、自分と同じ幹細胞で研究の最先端にいる方と情報交換ができたことは、これからの研究にとって非常に有益であったと思います。特に、今後論文を書くためには、どのような追加データを必要とするか、また世界の研究のトレンドから自分の研究の方向性をどのように位置づけるか等々、今後の研究のイメージを他の研究者との議論を経て自分なりにつかむことができたことが大きな収穫でした。最後になりますが、このような国際学会で発表できる研究を指導、援助して下さっている研究室の皆様へ深く感謝を致します。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告



WCPT-AWP & ACPT Congress 2013(タイジョン)に参加して

事柴 壮武 医歯薬保健学研究科 博士課程前期2年 保健学専攻
スポーツリハビリテーション学研究室

今回、9月5日から9日の期間で台湾の台中にあるNan Shan Education & Training Centerで開催された「The 6th WCPT-AWP & The 12th ACPT Congress 2013」に初めて参加させていただきました。本学会の参加人数は約1000名で、全体の約4割が日本人とのことでした。

私は今回、ポスター発表をさせていただきました。日本の学会ではポスター発表や口述発表、シンポジウムが別会場で行われており、また時間帯が重なることが多いのですが、今回は一切時間帯が重ならないようにプログラムが組まれていたため、ポスター会場も大勢の人がディスカッションできるような工夫がなされていました。今回、初めての国際学会で他国の理学療法士とディスカッションの重要性を経験すると同時に、自分自身の語学力の無さを痛感しました。口述発表のプログラムとして「STUDENT AWARD PRESENTATION」という学生の口述発表のセッションが設けられており、その中で台湾の学部生が表彰されていました。台湾のトップクラスの大学では授業は全て英語とのことで、同じ学生として大変刺激を受け、コミュニケーション能力の向上と個人が強くなることの必要性を感じました。今回の経験を活かして理学療法士、研究者として成長していきたいと思ひますし、さらに質の高い研究、そして発表が出来るよう精進していきます。次回はWCPT Congress 2015がシンガポール、ACPT Congress 2016がマレーシアで開催されるので、今後も積極的に国際学会参加していきたいと思ひます。

最後にこのような機会をいただくにあたり、ご支援いただいた広島大学に厚く御礼申し上げます。



13th Asian Federation of Sports Medicine Congress(クアラルンプール)に参加して

笹代 純平 医歯薬保健学研究科 博士課程後期2年 保健学専攻
スポーツリハビリテーション学研究室

このたび9月26日から28日の3日間の日程で、クアラルンプール(マレーシア)にあるBerjaya Times Square Convention Centerで開催された13th Asian Federation of Sports Medicine Congressに参加させていただきました。本学会の参加人数は約500名程度、内容はKeynote and Plenaryが40題、Free paper (Oral) が38題、Free paper (Poster) が35題でした。

大学院生海外発表支援を受け海外でプレゼンテーションを行うのは今回で2度目ということもあり、Abstractの作成、Registration、実際の現地でのコミュニケーションなど、国際学会での発表にともなう様々な手続きがよりスムーズに行えていることを実感しました。また今回は自分の発表だけでなく、フロアから質問する側としても積極的に英語でのコミュニケーションをとるよう心がけ、さらにスキルアップできるように取り組みました。発表者がこちらの質問の意図を理解できておらず、ややちぐはぐなディスカッションになってしまったため次回は工夫したいと思ひます。今後ますます研究者として成長できるよう、本学会での経験を生かし、普段から常に世界を視野に入れた研究活動を行っていきたく思ひます。

最後に、このたびの海外発表にあたりご指導、ご支援いただいた諸先生方、本学関係者の方々に深謝いたします。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告

7th world congress of the international society of physical and rehabilitation medicine(ベキン)に参加して

馬 玉宝 医歯薬保健学研究科 博士課程後期2年 保健学専攻 運動器機能医科学研究室

2013年6月16日から20日にかけて北京で開催された第7回国際リハビリテーション医学学会に参加しました。本学会の参加者は約2000名ということでありました。会場の内容として12会場があり、その中で一般演題が行われました。また、E-poster会場はフロアー(2F)の一角で行われ、展示会場は1フロアーを使用していました。

本学会の発表演題内容としては、スポーツ栄養、スポーツ生理、スポーツ心理、スポーツ医学とスポーツリハビリテーションなど多岐に渡っていましたが、スポーツリハビリテーションに関する研究は少なかったので残念でした。

今回、E-poster発表で参加させて頂きました。セッションはSports Medicine and Sports Rehabilitationでありました。2名から質問があり、ACL再建術後single bundleとdouble bundleのバランス機能と固有感覚に対する男女における相違についてと本研究の先進性についての質問でありました。

今回の国際学会では、発表における準備、発表方法、質疑応答など様々な経験をする事が出来ました。今後も国際学会に積極的に参加し、新たな知見を広め、また自分自身のプレゼンテーション能力の向上を目指したいと思います。



ASBMB Special Symposia Series(ウォレントン)に参加して

浅田 梨絵 医歯薬学総合研究科 博士課程3年 創生医科学専攻 分子細胞情報学研究室

2013年5月1日から4日にかけてアメリカで開催されたASBMB Special Symposia Series「The Multitasking Endoplasmic Reticulum in Health and Disease」において研究成果を発表させて頂きました。本研究会は細胞内小器官の一つである小胞体の機能や、機能破綻によってもたらされる疾患について研究を行っている研究者が世界中から集まり、4日間に渡って会場に泊まり込み、研究成果を発表、討論するといった内容のものです。大規模な国際学会とは異なり、同じ研究フィールドの研究者のみが集まるため、プレゼンテーション時間外にも非常に活発な討論が行われ、大変勉強になりました。海外の方は大変気さくに話しかけてこられるため、自分からも話かけ易く、私自身も聞くばかりではなく質問や討論に積極的に参加することができました。また、食事を伴にすることで海外の研究者とたくさん交流することができ、このような時間は自分自身の研究に対するモチベーション向上に繋がりました。研究会では、小胞体関連研究の分野において非常に著名な先生方が発表される中ただ一人私のみが学生で、加えて私はこのような海外の研究会で口頭発表を行うことは初めてでしたので大変緊張してしまい、発表は完璧とは言い難いものでしたが、次に活かされる糧となった大変良い経験でした。

連休中の研究会でしたが、大変貴重な経験をさせて頂くことができ、参加して本当に良かったです。再びこのような経験ができるよう成果を出すべく、日々の研究に一層勤しみたいと思います。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告



AACR Annual Meeting 2013 (ワシントン) に参加して

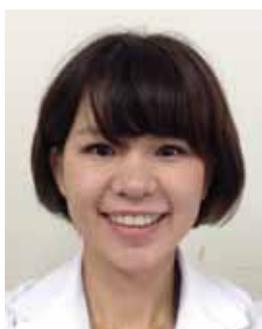
斧山 美恵子 医歯薬学総合研究科 博士課程3年 創生医科学専攻
消化器・代謝内科学研究室

私は、2013年4月6日から10日にかけて米国ワシントンで開催されたAACR (American Association for Cancer Research) Annual Meeting 2013で、“Combining molecular target drugs to inhibit cancer-stromal cell interaction in gastric cancer”の表題でポスター発表をしました。

我々のグループでは、癌の浸潤・転移における間質の役割に着目して研究をすすめています。今回はヌードマウスにヒト胃癌細胞株を同所移植したモデルにおいて、1) 間質に多く発現がみられるplatelet-derived growth factor (PDGF) 受容体を標的に持つ分子標的薬イマチニブとニロチニブの腫瘍間質に対する効果を検討し、2) PDGF受容体阻害作用のあるニロチニブと、mTOR (mammalian target of rapamycin) 蛋白を阻害し、癌細胞と癌の微小血管を標的とする分子標的薬エベロリムスの、標的の異なる2剤を併用することで単剤より効果的な治療法になりうるということを発表しました。

各国から研究者が集まる大きな学会ということもあり、学会会場のみならずポスターの会場も非常に広く、様々な内容の研究を見ることができました。

会場では、つたない英語での回答を聞いてくださる方や、アドバイスのような質問をしてくださった方もいて、今後の研究のヒントを得ることもできて、有意義な時間を過ごすことができました。



2013 In Vitro Biology Meeting(プロビデンス)に参加して

向笠 英恵 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻
分子口腔医学・顎顔面外科学研究室

2013年6月15日から18日にかけてアメリカ合衆国ロードアイランド州のプロビデンスにて開催された、Society for in Vitro BiologyのMeetingに参加および、ポスター発表をさせていただきました。私にとっては初めての国際学会への参加であり、さらに未熟な英語力ゆえ、頂いた質問に対し試行錯誤の英会話でなんとか応答するというような感じではありましたが、非常に貴重な経験をさせていただきました。Society for

in Vitro Biologyでは、Plant分野での研究討論が盛んに行われており、わたしはAnimal分野であったため比較的少数派でした。他分野の方々の実験について知る初めての機会であり、口演、ポスター発表共に興味深いものばかりでした。また、他分野の方々からの質問は、普段自分が考えないような視点からの意見も多く、とても刺激になりました。今後の実験に生かしていければと考えております。日頃のご指導、およびこのような素晴らしい機会を与えて下さった岡本哲治教授、また日頃から実験の指導をして頂いている山崎佐知子先生に、心から感謝しております。先生方のお力添えがなければこのような機会を得ることはなかったと言えます。今回の学会発表により、自らに挑戦し、自らを人間的に成長させることができました。素晴らしい機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。



European Respiratory Society Annual Congress 2013(バルセロナ)に参加して

井原 大輔 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 分子内科学研究室

スペインのバルセロナで2013年9月7日から11日にかけて開催されましたEuropean Respiratory Society Annual Congress 2013に参加し、「Intratracheal administration of dry powdered low-molecular-weight chitosan/siRNA complexes suppressed gene expression in the airway, alveoli, and metastatic tumors in murine lung」という演題でポスター発表を行いました。

近年、難治性疾患の新規治療法としてRNAiを応用する動きが高まっており、特に呼吸器分野では吸入用siRNA製剤に関する研究が注目されています。本研究は非ウイルスベクターとして低分子キトサンを用いた吸入用siRNA微粒子製剤に関するもので、吸入用siRNA製剤の肺組織における遺伝子抑制機能を気道・肺胞・肺腫瘍などの組織部位別に初めて評価をおこなったものです。

セッションでの発表では、英語でのディスカッションにたいへん緊張しましたが、質問者からの率直な意見や疑問、同じく吸入用核酸製剤を研究する参加者との情報交換から、今後の研究へのアイデアや刺激を得る事ができました。

今回はこのような有意義な機会を与えて頂き、諸先生方、大学院生海外発表支援関係者の皆様に御礼申し上げます。



第49回欧州糖尿病学会（バルセロナ）に参加して

久保田 益巨 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 分子内科学研究室

2013年9月23日から27日にかけて、バルセロナ（スペイン）のGran Viaにて行われた第49回欧州糖尿病学会に参加し、「Relationship between serum cholesterol efflux capacity and glucose tolerance status in Japanese-Americans」という演題で一般口演を行いました。本演題は、Lipids: prediction and functional studiesというセッションに採択され、Helsinki大学のM. R. Taskinen教授がchairpersonを務めて下さいました。発表前後にTaskinen教授に今後も交流を続けて行くことができ

れば幸いである旨お伝えできたのは大変有意義でした。発表では、当研究室が継続している日系米人医学調査であるハワイ・ロサンゼルス・広島スタディの受検者において、75g経口ブドウ糖負荷試験で判定した耐糖能別に、血清のコレステロール引き抜き能（cholesterol efflux capacity）を評価したデータを提示しました。Cholesterol effluxは、生体のもつ抗動脈硬化機序であるコレステロール逆転送系の最初のステップであり、マクロファージから血清が余剰なコレステロールを引き抜く現象を指します。測定自体はRI室でのcell lineを用いたバイオアッセイが主体です。今回、労力を費やし測定したデータで、欧州での情報発信が出来たことが大変嬉しかったです。発表終了後は、座長の先生から2つほど質問を頂きました。共に非常に示唆に富む質問であり、今後の研究に生かしていこうと思えました。糖尿病の日常診療においては、動脈硬化性疾患で患者の生命が脅かされることに直面する機会が多いのが現状です。少しでも糖尿病患者の予後の改善に繋がるような研究が出来るようにとの決意のもと帰路につきました。



院生及び若手研究者の国際学会参加報告

**49th EASD Annual Meeting (バルセロナ)に参加して**

志和 麻実 医歯薬学総合研究科 博士課程3年 展開医科学専攻 分子内科学研究室

2013年9月23日から27日にかけてスペインのバルセロナで開催された49th European Association for the Study of Diabetes Annual Meetingに参加し、「The influence of the duration of exposure to westernized lifestyle and childhood environment on development of lifestyle-related diseases in Japanese-Americans」という演題でポスター発表を行いました。当教室で長年行っている日系米人を対象とした疫学研究について、日系米人の1世よりも2世以降は肥満やメタボリック症候群の有病率が高く、それは欧米化した生活習慣に幼少期から長期間曝露されることが関与することを報告しました。残念ながら、今の私の英語での発表・質疑応答では、日系米人になじみの薄い欧州の先生方の心をとらえることは困難でした。しかし研究の問題点や弱点をはっきり認識することができ、非常に有意義であったと感じています。学会全体では、日本よりもヨーロッパでの有病率が高い1型糖尿病のセッションが多かったのが印象的で、臨床的な内容はすぐにも今後の診療に還元したいと思っております。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった河野修興先生はじめ諸先生方に、心より御礼申し上げます。

**American Association of Orthodontists (フィラデルフィア)に参加して**

角 明美 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 歯科矯正学研究室

2013年5月3日から7日にかけて、アメリカのフィラデルフィアで行われたアメリカ矯正歯科学会に参加し、「Effects of cyclic tensile forces on the expression of cytokines in cultured human pulp cells」という演題で、ポスター発表をさせていただきました。

正常咬合を獲得する上で矯正歯科治療は必須であり、近年、小児から成人までその適応は幅広いものとなっています。しかしながら、その一方で歯根吸収という臨床上きわめて重大な問題を引き起こす場合があります。現在、歯根吸収の発症に関して様々な要因が挙げられているものの、はっきりとした原因は未だ説明されていません。古くから、矯正力は移動させた歯の歯髄へ何らかの影響を及ぼすと考えられており、その血流の循環障害の程度は矯正力の大きさに応じて、生じることが報告されています。そこで我々は、歯髄組織に注目し、ヒト歯髄細胞への周期的伸展刺激が炎症性サイトカインであるIL-1 β 、TNF- α 、および破骨細胞の分化誘導因子であるRANKL、M-CSFの発現に及ぼす影響と、そのメカニズムについて検討を行い、発表させていただきました。

学会に参加させていただいたことで、学会参加者とのディスカッションや海外の研究者の講演を聞くなど、大変有意義な時間を過ごすことができました。帰国後は、これまで以上に研究の向上を目指したいと思えました。



第23回アジア太平洋肝臓学会(シンガポール)に参加して

藤本 真弓 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 疫学・疾病制御学研究室

2013年6月7日から10日にかけてシンガポールで開催された、第23回アジア太平洋肝臓学会に参加し、“Study on hepatitis viral infection among School Students in Cambodia”という演題でポスター発表をいたしました。この学会は、世界の3大肝臓関連学会の一つという重要な学会で、ここで発表できたことは私にとって大変光栄なことでした。

当研究室では2010年からカンボジア王国でB型・C型肝炎ウイルス感染状況の調査を行っています。アジアはB型肝炎の持続感染者の多い地域ですが、カンボジアについてのデータは充分とは言えません。今回私は小学3年生を対象とした調査の結果を報告しました。日本に比べるとB型肝炎の持続感染が多く、今後は新規感染に関する調査を行って、感染状況をさらに明らかにしていく予定です。この発表に対して中国や台湾、アルメニアなどから来られた先生方から多くの質問やコメントがあり、当研究室で行っているカンボジアの調査がいかに重要なことであるかを再認識いたしました。

また、学会ではWHOのウイルス性肝炎対策のシンポジウムなど、熱気に満ちた討論が繰り広げられ、大きな刺激を受けました。今後一層勉強に励み、さらに良い研究を進めていきたいと思っております。このような機会を与えてくださった皆様に感謝いたします。

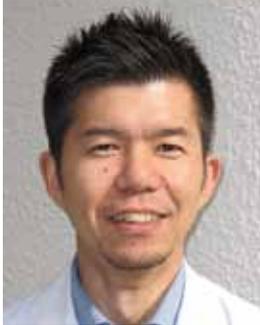


The 43rd National Organic Chemistry Symposium(シアトル)に参加して

近藤 泰博 医歯薬保健学研究室 博士課程後期2年 薬科学専攻 創薬合成化学研究室

私は大学院生海外発表支援により渡航費の一部助成を受け、2013年6月23日から27日にかけてアメリカ、ワシントン州シアトルの Washington University で開催された The 43rd National Organic Chemistry Symposium (NOS 2013) に参加しましたので報告します。本会において私は「Synthesis of α -Silylamines via Enantioselective Reduction of α -Silylimines by Chiral Lithium Amide」という題目でポスター発表を行いました。内容は以前当研究室で開発したキラルリチウムアミドによる不斉還元反応を利用して、有用な生理活性を有するにも関わらず合成法が確立されていないキラルシリルアミンを合成するというものです。日本の学会とは異なりカジュアルな雰囲気の中で肩肘を張ることなく発表し、外国の研究者の方々と議論を交わすことで有益なコメントを頂くことができました。ただ、不慣れな英語での発表であったため、意思の疎通に手間取る場面もあり、国際的に活躍する研究者になるためには英語力がまだまだ足りないと感じました。今後は今回の経験を活かして残りの大学院生活を送りたいと思っています。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告

13th PITUITARY CONGRESS (サンフランシスコ)に参加して

木下 康之 病院 脳・神経・精神診療科 医科診療医

2013年6月12日から14日にかけてサンフランシスコにて開催された、第13回PITUITARY CONGRESSに参加させて頂いたことをご報告致します。同学会は2年に1度開催され、文字通り下垂体に限った内容を3日間昼夜にわたってディスカッションします。世界各地から下垂体疾患に携わる著名な先生が集まり最新の知見を講演されるため、下垂体疾患の診療に関わる私としては非常に有意義な学会でした。同学会にて“Masked hyperprolactinemia: tumor-derived factors inhibiting prolactin secretion caused by pituitary-stalk damage”という演題を発表致しました。下垂体茎障害型高プロラクチン血症について新たな病態を示す内容で、今後さらに研究を発展させていきたいと思っております。

広島大学病院脳神経外科では下垂体疾患に対する手術件数が全国的にも多く、西日本では1-2位を争う症例数となっています。国際学会に参加し最新の知見を得ることで、患者さんへの治療に役立てて行くと共に、今後日本のみならず世界に向けて広島大学での治療・研究成果を発信していきたいと考えています。最後になりましたが、このような発表の機会を与えて頂きました栗栖薫教授、そして海外発表支援を頂きました広島大学大学院医歯薬保健学研究科に深く感謝申し上げます。

24th Annual Scientific Sessions of the American Society Echocardiography(ミネアポリス)に参加して

宇都宮 裕人 病院 循環器診療科 医科診療医

平成25年6月29日から7月2日にかけて、アメリカ合衆国ミネアポリスで循環器領域の超音波学会である24th Scientific Sessions of the American Society of Echocardiographyが開催されました。今回、本学会で発表させていただく機会を得ましたので御報告いたします。会場となったミネアポリスは、全米でも住みやすい地域の上にランクされており、清廉な近代的ムードとアメリカの日常の活気が伝わる町並みだと感じました。自分はポスター発表で、負荷心エコーおよび安静時エコー所見を組み合わせた際の、心筋虚血診断能の向上について発表しました。ポスターには同分野の著名な先生が立ち寄って下さり、鋭い質問への回答に四苦八苦したり、米国留学中の旧友に会ってお互いの研究テーマや最近の傾向について熱く議論を交わしたり、とても有意義なディスカッションを行うことができました。また、特別講演(Feigenbaum lecture)では、旧友が留学しているラボのボスが講演を行いました。途中でFeigenbaum先生本人が登場するサプライズもあり、個人的にはとても感動しました。その後は、主に弁膜症や負荷心エコーの分野を中心にセッションを回りましたが、海外研究者との交流を通して重要なヒントをいくつか得ることができました。これらを今後の研究に生かし、広島大学からさらなる情報発信ができるように頑張りたいと考えています。最後に、発表の機会を与えてくださった木原康樹教授をはじめ、諸先輩方、同僚の皆に感謝の意を表したいと思っております。ありがとうございました。

院生及び若手研究者の国際学会参加報告

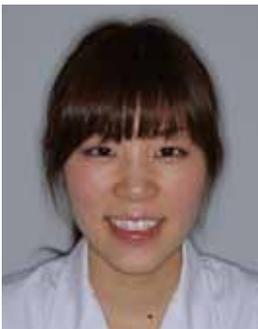
**The 24th Congress of International Association of Paediatric dentistry(ソウル)に参加して**

島田 歩 病院 口腔健康発育歯科 歯科診療医

今回、私は平成25年6月12日から15日にかけて、韓国のソウルで開催されたThe 24th Congress of International Association of Paediatric dentistryに参加しました。同学会は小児歯科分野の国際学会であり、毎年2000人近くの人に参加する学会です。学会では、国内の学会ではあまり感じることはできない、お祭りのような雰囲気、皆が楽しんでいるのが伝わってきました。学会でのレクチャーは小児歯科分野の最新のトピックが多く、大変興味深いものでした。ポスターもとても数が多く、研究・臨床を含めた様々な視点から小児歯科分野の知識が得られ、今後のモチベーションの向上に繋がるものでした。

今回の私の発表テーマは私が大学院4年間で研究した内容を発表しました。しかし、まず学会参加前のポスターを英語で作製するときにも、自分の言いたい表現がなかなか見つからずその作成に大変苦労しました。今回の経験は、今後英語でポスターや論文を作成する上でとても勉強になりました。また、ディスカッションにおいても、質問を受けてもなかなか相手に自分の意見をスムーズに伝えることが出来ず、悔しい思いをしました。日本語であれば簡単に答えられる質問も、なかなか相手に理解されないということが幾度もあり、英語できちんとコミュニケーションをとることは必須であるなど改めて感じました。

今後、今回の貴重な経験を踏まえ、世界を意識して小児歯科分野の発展に寄与していきたいと考えています。

**113th American Association of Orthodontists Annual Session(フィラデルフィア)に参加して**

吉見 友希 病院 口腔健康発育歯科 歯科診療医

平成25年5月3日から7日にかけて、アメリカ、フィラデルフィアで開催された113th American Association of Orthodontists Annual Sessionに参加し、『Amelogenin variants promote the proliferation and differentiation of human cementoblasts』という演題でポスター発表を行いました。アメロゲニンは歯の形成期に産出されるエナメル蛋白質の一種であり、近年の研究では、エナメル質のみならず様々な歯周組織へも生理活性をもつことが示唆されています。本研究では、アメロゲニンを効率よく作用させるため、活性部位の探索を行いました。その結果、アメロゲニンの活性部位がC末端側に存在することが強く示唆されました。セメント質は、歯の歯根の一番外側に存在し、力に対する強い抵抗性を持つことから、矯正力による歯の移動が可能となるとされています。過度な矯正力などによりリモデリングのバランスが崩れると歯根吸収が引き起こされることがありますが、セメント質の再生方法は現在のところ確立されていません。エナメル蛋白は矯正歯科の分野において注目度は高くありませんが、エナメル質やセメント質に対する作用を考慮すると、今後臨床応用の可能性を秘めた生体材料であると再認識しました。

今回、矯正歯科治療の本場であるアメリカ矯正歯科学会に参加させて頂いたことにより、最先端の基礎研究、治療法などに触れることができ、これからの研究および臨床に益するところ誠に多大な経験でした。このような貴重な機会を与えて下さった丹根名誉教授、谷本教授を始め多くの先生方に深謝申し上げます。

最近の新聞記事から

- ドクターヘリ 運航
県内全域30分以内で到着
5月から 県内配備は初 (病院) (毎日 4 / 3)
- 広島県ドクターヘリ
大竹で搬送訓練 (病院) (中国 4 / 4)
- 肺がん治療最前線紹介
中区で市民講座 (病院) (中国 4 / 8)
- ウイルス消毒文科大臣表彰
広島大大学院 二川教授が会見 (医歯薬保) (中国 4 / 9)
- 消毒効果長持ち 科技賞
「感染防止に役立てて」
広島大・二川教授開発 (医歯薬保) (朝日 4 / 9)
- 全面禁煙公的4病院まだ
中国地方 行政評価局が改善要望 (病院) (中国 4 / 10)
- ドクターヘリ 活躍誓う
広島 運用開始へ記念式典 (病院) (中国 4 / 13)
- 筋弛緩剤瓶5本紛失
15人分致死量 広島大病院施錠せず (病院) (中国 4 / 13)
- 広島大病院が筋弛緩剤紛失
15人分の致死量 (病院) (読売 4 / 13)
- 筋弛緩剤5本紛失
広島大病院 (病院) (朝日 4 / 13)
- 最期の迎え方
みとり後ケア振る返るデスカンファレンス
本人や家族の思い知る
「家で」かなえる力に
在宅医療の現場で広がり
支える側の心もサポート (病院) (中国 4 / 17)
- ドクターヘリ搬送連携確認
福山で訓練 (病院) (中国 4 / 19)

最近の新聞記事から

- ドクターヘリ 準備よし
来月運用開始へ (病院) (読売 4 / 20)
- 小児がん 患者らの立場 理解を
広島大 経験者、医学生に訴え (医学部) (中国 4 / 24)
- 医療ヘリで救命率向上
来月から乗り入れ 吉賀で専門医講演 (病院) (中国 4 / 25)
- オピニオン
広島県のドクターヘリ 1日から運航
迅速救命へ住民理解を
着陸ポイント整備も鍵 (病院) (中国 4 / 28)
- ドクターヘリ乗り入れ訓練
島根・邑南町の病院
広島側に出動要請→搬送手順確認 (病院) (中国 5 / 1)
- 元カープV選手 医療語る
米の整形外科医 ホブキンスさん
23日、広島・中区の学会 (医歯薬保) (中国 5 / 2)
- 18歳未満少年 臓器提供
中国地方初 呉で脳死判定 (病院) (中国 5 / 12)
- 広島大病院での移植手術終わる
18歳未満臓器提供 (病院) (朝日 5 / 13)
- 個人開業歯科医院の安全性点検
感染症や医療事故防止
広島大病院などが新機構 (病院) (中国 5 / 15)
- 広島北部の医療 医師ら充実訴え
県議会特別委 (医学部) (中国 5 / 15)
- 広島大本部跡人材センター
16年4月開館目指す
住民に説明 医療系の教養課程移転 (医・歯・薬学部) (中国 5 / 16)
- いきいき中国
週刊 お年寄り 糖尿病^上
企業発「重症化防げ」

最近の新聞記事から

- 食事・運動療法 自治体など採用
医療費増に歯止めも (医歯薬保) (中国 5 / 18)
- 歯科の院内感染や事故予防策を支援
「安全支援機構」きょう発足 (医歯薬保) (中国 5 / 18)
- 歯科医療 大病院、診療所連携
支援機構発足 県内全域で対策 (病院) (毎日 5 / 21)
- 公務執行妨害の容疑で医師逮捕
広島中央署 (病院) (中国 5 / 21)
- 広大病院の医師警官殴った疑い
現行犯逮捕、否認 (病院) (日本経済 5 / 21)
- 広大医師を逮捕
救命入り口に警察車「どかせえや」
警部殴った疑い 否認 (病院) (朝日 5 / 22)
- 駐車位置に立腹 医師が警官殴る
広大病院、容疑で逮捕 (病院) (読売 5 / 22)
- 病院医師逮捕
警察車両の駐車絡むトラブルか (病院) (中国 5 / 22)
- 広大医師を釈放
広島中央署、書類送検へ (病院) (朝日 5 / 23)
- 第86回日本整形外科学会学術総会 テーマ「Let's learn from history」
5月23日～26日 広島で開催
運動器疾患 過去学び未来展望
骨や筋肉の機能低下…「ロコモ」予防啓発 (医歯薬保) (中国 5 / 23)
- 災害時の医療対策探る
広島 整形外科学会が開幕 (医歯薬保、原医研) (中国 5 / 24)
- 親子虫歯予防デー 食事アドバイス
31日、広大病院 (病院) (中国 5 / 26)
- 虫歯の予防法 親子で学ぼう
31日、広島大病院 (病院) (中国 5 / 29)

最近の新聞記事から

- 放射線 被爆時10～44歳に影響
広島で研究会 がん死亡高リスク (原医研) (中国 6/3)
- 被爆者 高いがん危険度
原医研調査 残留放射線影響か (原医研) (読売 6/3)
- 「ヒバク」科学が検証
広島で研究会
福島の甲状腺検査巡り議論
「爆心1週間で死亡率上昇」原医研助教ら (原医研) (朝日 6/3)
- 汗のアトピー カビ関与
広島大大学院 秀教授らが解明 (医歯薬保) (中国 6/7)
- 広島県ドクターヘリ1ヵ月
出動35件 滑り出し順調
島根の患者も搬送
月内には山口東部乗り入れ (病院) (中国 6/11)
- 症例検討会
離着陸場所「増やして」
現在340ヵ所 要望相次ぐ (病院) (中国 6/11)
- 熱中症 梅雨こそ注意
広島大病院の岩崎医師に聞く
汗かきにくく熱が体にこもる
喉渇く前に水分補給を
体調に合わせて室温設定 (病院) (中国 6/12)
- 市民公開講座
衰える骨や関節機能 ロコモティブシンドローム予防へ
丈夫な足腰 長寿の支え
開会あいさつ 越智 光夫さん (医歯薬保) (中国 6/23)
- 広島大地中から砲弾 (医歯薬保) (読売 6/25)
- アルツハイマー かみ合わせと関連
歯を失うと症状悪化
マウス実験 メカニズム探る
広島大大学院など研究チーム (医歯薬保) (中国 7/4)
- 奥歯失う→アルツハイマー病悪化

最近の新聞記事から

- 広島大などマウス実験
脳への刺激や血流量減った影響？ (医歯薬保) (朝日 7 / 4)
- 参院選 あすへの1票
96条改正 実現性ある平和を
広島大大学院教授 秀 道広さん (56) = 広島市南区 (医歯薬保) (中国 7 / 10)
- 被爆資料が語る平和
広大の収集品 20日、講演会 (医歯薬保) (中国 7 / 16)
- 小児がん治療法共有
広島大と中四国16病院
ネットワーク発足 テレビ会議で報告・助言 (病院) (中国 7 / 23)
- カザフで移植支援
広島大病院「生体肝」チーム派遣へ (病院) (中国 7 / 25)
- 「世界肝炎デー」学生ら知識学ぶ
広大霞キャンパス (医学部、薬学部) (朝日 7 / 28)
- ケロイド 詳細な検診票
原医研 被爆者21人分発見 (原医研) (中国 7 / 30)
- 被爆2年後 ケロイド調査票
広島大発見21人の症状、詳しく記載 (読売 7 / 30)
- 公務執行妨害容疑 広大の医師不起訴 地検 (病院) (朝日 8 / 1)
- 平和イベントナビ
広大でケロイド検診資料発見
投下2年後に21人 医学資料館で展示 (医学部) (朝日 8 / 2)
- 原発災害 経験伝える
広大・谷川教授ら 医師ら証言出版 (医歯薬保) (朝日 8 / 10)
- 被ばく医療課題 学会シンポ議論
24日に中区で開催 (医歯薬保) (朝日 8 / 10)
- カザフで肝移植 術後良好
広島大チーム (病院) (中国 8 / 15)
- カザフで生体肝移植

最近の新聞記事から

- 広大チームが成功（病院）（朝日 8 / 15）
- 広島大医療チーム
カザフで生体部分肝移植
初手術、経過は良好（病院）（毎日 8 / 15）
- カザフスタンに技術支援
広大病院肝臓移植で（病院）（日本経済 8 / 15）
- 広島大病院
医科・歯科外来を集約
来月20日新診療棟オープン（病院）（中国 8 / 20）
- 中山間地域で働くやりがい
医学生、現場の医療学ぶ
広島県内 病院などでセミナー（医学部）（中国 8 / 20）
- 原発被災者治療の記録
広島大病院の谷川教授出版
医師や看護師 事故直後の混乱・課題指摘（病院）（中国 8 / 20）
- 原爆ドーム堀の一部か
西区・嘉陽さんら 元安川から引き上げ（医歯薬保）（中国 8 / 23）
- 薬が効きにくいがん末期などの痛み
疼痛抑える手法実証
広島大大学院グループ米科学誌に発表（医歯薬保）（中国 8 / 23）
- がんや糖尿病の痛み治療薬候補
広大・仲田教授ら物質発見（医歯薬保）（朝日 8 / 23）
- たんぱく質機能抑制 がんの痛み緩和
「中和抗体」の効果確認 広大研究チーム（医歯薬保）（読売 8 / 24）
- 広島大病院の新診療棟公開（病院）（中国 8 / 30）
- 最先端医療実施へ
広大病院新診療棟 来月20日から開院（病院）（毎日 8 / 30）
- 広島大病院 新診療棟9月20日（金）オープン
高度医療をより優しく、より快適に。
先進的な診療に加え 利便性も配慮、広島大病院 茶山一彰病院長（病院）（中国 9 / 1）

最近の新聞記事から

「患者・来院者に分かりやすい病院」へ進化

医科・歯科同じ棟に 診療機能アップ外来1～3階に」集約

診療室 個室に プライバシー保護に配慮

中四国初「スポーツ医科学センター」 トップ選手ケアに力

コンセプト「グリーンホスピタル」 緑化・光庭 安らぎ空間（病院）

（中国 9／1）

広島「医」の拠点 より向上

「最先端」がそろそろ充実の医療環境

診療科ブロックごと料金計算→中央受付の混雑解消へ

小児がん拠点病院に指定 中四国の16病院とネット

医師ら搭乗 ドクターヘリ運航 広島県全域30分でカバー（病院）

（中国 9／1）

広大病院に新診療棟完成

最新の放射線照射装置導入 20日開院（病院）

（読売 9／2）

広島大病院 診療棟完成

新棟、20日オープン（病院）

（朝日 9／2）

自然エネ活用 新たな診療棟

広島大病院、20日に（病院）

（日本経済 9／2）

血液がん主因遺伝子発見

被爆者・放射線治療患者が発症

原医研グループ 検査手法開発に期待（原医研）

（中国 9／10）

白血病原因遺伝子を発見

被爆後遺症 解明に期待

広大グループ 細胞増殖調節機能に着目（原医研）

（読売 9／10）

白血病の原因遺伝子

広大教授ら発見 失われると発症（原医研）

（毎日 9／10）

放射線被曝後の血液がん

原因遺伝子を解明 広島大（原医研）

（朝日 9／10）

10年かけ「スタート地点に」

広島大 血液がん原因遺伝子解明（原医研）

（朝日 9／10）

オピニオン

3. 11と災害医療

弱者の避難が重い課題

最近の新聞記事から

谷川攻一・広島大病院高度救命救急センター長（病院） (中国 9 / 11)

選手の動き 解消し助言

広島大病院 医科学センターきょう開設（病院） (中国 9 / 20)

手続きスムーズ 混雑解消

広島大病院 新診療棟オープン（病院） (中国 9 / 21)

日本代表、送り出したい

アンプティサッカー中四国チーム代表 坂光 徹彦さん 36（佐伯区）（病院） (読売 9 / 28)

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 4月18日(木)	第132回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「造血細胞移植の新時代へ向かって」 講師：一戸 辰夫 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	原爆放射線医科学研究所事務室
平成25年 4月19日(金)	第133回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「細胞の大きさを規定する分子基盤」 講師：山本 一男 先生 (Scientific Associate, The Campbell Family Cancer Research Institute / Department of Medical Biophysics, University of Toronto 現所属：長崎大学医学部共同利用研究センター)	原爆放射線医科学研究所事務室
平成25年 4月19日(金) ～21日(日)	第116回日本小児科学会	広島国際会議場 広島市文化交流会館 アステールプラザ	テーマ 「平和とともに歩む 小児医学・小児医療」 会頭講演 招待講演 1. 若手小児科医よ、海外へ～私の経験から～ 小川 真紀雄 先生 (サウスカロライナ医科大学 内科・病理学) 2. Toward a genetic theory of childhood infectious diseases Jean-Laurent Casanova 先生 (St. Giles Laboratory of Human Genetics of Infectious Diseases The Rockefeller University) 特別講演 1. 神経疾患と最新の遺伝子解析 辻 省次 先生 (東京大学医学系研究科 脳神経医学専攻 脳神経内科学) 2. iPS細胞技術の神経疾患研究・治療への応用 赤松 和土 先生 (慶應義塾大学医学部生理学教室) 3. IL-6：私のトランスレーショナルリサーチ 岸本 忠三 先生 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫機能統御学) 特別企画(市民公開講座) 日本小児科学会賞受賞講演 教育講演 19題 総合シンポジウム 10題 多職種シンポジウム 3題 モーニング実践講座 6題 教育セミナー 31題 モーニング教育セミナー 4題	医歯薬保健学研究院小児科学 教授 小林 正夫
平成25年 4月30日(火)	第134回原医研セミナー	総合研究棟3階 303号室	「T細胞性リンパ腫における分子病態の解析」 講師：吉田 稚明 先生 (愛知県がんセンター研究所)	原爆放射線医科学研究所事務室
平成25年 5月1日(水)	第135回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「血管細胞のエピゲノム研究から明らかになった転写メカニズムの新しい概念」 講師：和田 洋一郎 先生 (東京大学アイソトープ総合センター) 「核局在型長鎖ノンコーディングRNAによる転写制御」 講師：秋光 信佳 先生 (東京大学アイソトープ総合センター)	原爆放射線医科学研究所事務室
平成25年 5月11日(土)	広島循環器ケア・リハビリテーション研究会・分科会	広島大学病院 広仁会館	教育講演 「あなたにも分かる運動生理～心リハに役立てよう～」 講師：安信 祐治 先生 (三次地区医療センター病院長) 一般演題 1. 「閉塞性無呼吸症候群を伴った心不全患者に対するオーセツトCS使用経験」 講師：頼政 理恵 先生 (二宮内科 臨床検査技師) 2. 「当院における待機的PCI患者への心臓リハビリテーション」 講師：大浦 啓輔 先生 (福山循環器病院 理学療法士)	共催：広島循環器ケア・リハビリテーション研究会 帝人在宅医療株式会社 帝人ファーマ株式会社 後援：広島県医師会 広島県看護協会 広島県理学療法士会

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 5月12日(日)	第5回広島県糖尿病・腎不全療養指導看護研究会	保健学研究科棟 203室	第5回広島県糖尿病・腎不全療養指導看護研究会 テーマ「糖尿病・腎不全患者さんとの会話を円滑にするアプローチ～面接技法の基本から～」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山 美知子
平成25年 5月12日(日)	第15回広島県呼吸ケア看護研究会	広島国際会議場	第15回広島県呼吸ケア看護研究会 テーマ「呼吸介助法の実際」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山 美知子
平成25年 5月16日(木)	第136回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「キメラ型抗原レセプターを利用したautologous immunotherapyの開発と造血器悪性腫瘍への応用」 講師：三原 圭一朗 先生 (広島大学病院) 「骨髄異形成症候群(MDS)におけるポリコム複合体PRC2構成因子EEDの機能欠失型変異」 講師：上田 健 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	原爆放射線医学研究所事務室
平成25年 5月17日(金)	第8回新広島循環器治療研究会	リーガロイヤルホテル広島	特別講演1 「ステンドグラフトを用いた胸部大動脈手術」 内田 直里 先生 (広島大学病院 心臓血管外科 診療准教授) 特別講演2 「高安病の診断と治療：最近の進歩」 磯部 光章 先生 (東京医科歯科大学大学院 循環制御内科学 主任教授)	医歯薬保健学研究院 循環器内科学 教授 木原 康樹 共催：新広島循環器治療研究会 協和発酵キリン株式会社
平成25年 5月19日(日)	第265回 広島眼科症例検討会・ヒロシマフォーラム2013合同学会	広仁会館	第265回症例検討会 症例検討・供覧 1. 角膜上皮内殖(epithelial ingrowth)の1例 井之川 宗右 先生 (広島大学) 2. 高眼圧を呈したKlippel-Trenaunay-Weber症候群の1例 村上 祐美子 先生 (市立三次中央病院) 3. 網膜格子状変性に対する予防的光凝固術後に網膜剥離を発生した1例 森口 裕子 先生 (県立広島病院) 4. 視神経炎を呈したWegener肉芽腫症の1例 田中 文香 先生 (広島赤十字・原爆病院) 5. 両眼性の点状脈絡膜内層症で両眼に脈絡膜新生血管を合併した1例 武田 哲郎 先生、木村 徹 先生 (木村眼科内科) 特別講演 乱視矯正に必要な基礎知識 戸田 良太郎 先生 (広島大学) ヒロシマフォーラム2013 特別講演1 「本当はこわい白内障手術」 広田 篤 先生 (広田眼科 院長) 特別講演2 「BC Flushingと難症例に対する白内障手術」 三好 輝行 先生 (三好眼科 院長)	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 教授 木内 良明
平成25年 5月20日(月) ～21日(火)	日本膜学会第35年会	早稲田大学 西早稲田キャンパス	人工膜特別講演 「ガス分離膜実用化へのアプローチ －分離性を上げる？透過性を上げる？－」 原谷 賢治 先生 (産業技術総合研究所) 生体膜特別講演 「細胞膜の本質に迫る」 高桑 雄一 先生 (東京女子医科大学)	医歯薬保健学研究院 医療薬理学 教授 高野 幹久

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 5月20日(月) ～21日(火)	日本膜学会第35年会	早稲田大学 西早稲田キャンパス	人工膜シンポジウム1 「膜による水処理技術を展望するⅣ」 オーガナイザー：都留 稔了 先生 (広島大学) 松山 秀人 先生 (神戸大学) 人工膜シンポジウム2 「無機膜が拓く新しいプロセス技術の展望Ⅰ」 オーガナイザー：松方 正彦 先生 (早稲田大学) 生体膜シンポジウム 「生体防御の最前線：上皮バリアと輸送～基礎 研究から創薬研究へ～」 オーガナイザー：浅野 真司 先生 (立命館大学) 特別企画 「生体膜と人工膜の研究融合のための相互理解 に向けて」 オーガナイザー：高野 幹久 先生 (広島大学)	医歯薬保健学研究院 医療薬剤学 教授 高野 幹久
平成25年 5月23日(木) ～26日(日)	第86回 「日本整形外科学会学術 総会」	広島グリーンア リーナ リーガロイヤルホ テル広島 NTTクレドホール メルパルク広島	第86回日本整形外科学会学術総会 テーマ： 「整形外科 彰往察来-Let's learn from history-」 基調講演： 「日本の整形外科医療体制の充実へ-近年の動き-」 越智 隆弘 先生 (大阪警察病院) 「わが国の整形外科の現状と将来」 戸山 芳昭 先生 (慶應大学) 会長講演： 「整形外科-彰往察来-」 越智 光夫 先生 (広島大学) 文化講演： 「崩れつつある四つの柱 医療、教育、司法、宗教」 内田 樹 先生 (凱風館) 特別講演： 1. 世界初の細胞シート再生医療のスタート 岡野 光夫 先生 (東京女子医科大学先端生命医科学研究所) 2. 超高齢社会におけるライフステージにあわ せた運動器対策 -ロコモティブシンドローム- 中村 耕三 先生 (国立障害者リハビリテーションセンター) 3. 整形外科診療に関する今後の法政策-その 可能性と課題- 古川 俊治 先生 (慶應大学法科大学院教授・医学部外科 教授、参議院議員) 4. キーワードは「前向き」 米沢 富美子 先生 (應義塾大学名誉教授) 5. 次世代女性リーダーの育成 郷 通子 先生 (お茶の水女子大学前学長) 彰往察来講演： 1. 膝前十字靭帯再建術の歩みと未来 黒坂 昌弘 先生 (神戸大学) 安田 和則 先生 (北海道大学) 2. 寛骨臼回転骨切り術(田川式) 土方 浩美 先生 (東京女子医科大学) 寛骨臼骨切り術の現状と今後の取り組み	医歯薬保健学研究院 整形外科学

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 5月23日(木) ～26日(日)	第86回 「日本整形外科学会学術 総会」	広島グリーンア リーナ リーガロイヤルホ テル広島 NTTクレドホール メルパルク広島	<p>内藤 正俊 先生 (福岡大学)</p> <p>3. 頸部脊柱管拡大術－開発の歴史とその意義－ 平林 洵 先生 (慶友整形外科) 頸椎椎弓形成術の現状と未来 星地 重都司 先生 (自治医科大学)</p> <p>4. 変形性膝関節症に対する手術の変遷 －過去より現在まで－ 腰野 富久 先生 (横浜国立大学) 人工膝関節置換術の未来 松田 秀一 先生 (京都大学)</p> <p>5. 人工股関節置換術 歴史と現況 中村 孝志 先生 (京都医療センター) 人工股関節全置換術、さらなる改良の余地は？ 菅野 伸彦 先生 (大阪大学)</p> <p>6. 再建外科におけるマイクロサージャリーの歴史 生田 義和 先生 (広島手の外科・微小外科研究所) マイクロサージャリー －世界への発信と未来への展望－ 光嶋 勲 先生 (東京大学病院形成外科)</p> <p>7. 肩関節不安定症の歴史と治療 信原 克哉 先生 (信原病院・バイオメカニクス研究所) 肩関節不安定症の歴史と治療－今後の展望－ 井樋 栄二 先生 (東北大学)</p> <p>8. 腰椎椎間板ヘルニアに対する治療法 －過去から現在に至る歩みや取り組み－ 菊池 臣一 先生 (福島医科大学) 腰椎椎間板ヘルニアに対する治療法 －未来への展望と取り組み－ 波呂 浩孝 先生 (山梨大学)</p> <p>9. 骨・軟部腫瘍の手術－歴史に見る進歩－ 内田 淳正 先生 (三重大学) 骨・軟部腫瘍の手術－未来への展望－ 土屋 弘行 先生 (金沢大学)</p> <p>10. 手関節部痛の診断と治療・歴史と展望 三浪 明男 先生 (北海道中央労災病院) 手関節部痛の診断と治療・歴史と展望 －未来への展望－ 中村 俊康 先生 (慶應大学)</p> <p>招待講演： 54題 教育研修講演： 40題 モーニングセミナー： 5題 ランチョンセミナー： 40題 イブニングセミナー： 16題</p>	医歯薬保健学研究院 整形外科学
平成25年 6月3日(月)	第137回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「DNA-PK and the Pathway Choice of DNA Double-Strand Break Repair」 講師：David J. Chen 先生 (UT Southwestern Medical Center)	原爆放射線医学研究所事 務室

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 6月10日(月)	第14回広島リハビリテーション研究会(第5回摂食嚥下部門)	広仁会館 大会議室	第14回広島リハビリテーション研究会・第5回摂食嚥下部門 「広島県における脳卒中治療の現状」 講師：青木 志郎 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経内科学 特任助教) 「転院先ST不在のため、継続した経口摂取が困難であった1症例」 講師：水戸 裕香 先生 (荒木脳神経外科 言語聴覚士) 「食形態で難渋したALSの1症例」 講師：長尾 晶子 先生 (広島大学病院栄養管理部) 「短期間に再発を繰り返せる多発性脳梗塞患者の嚥下リハビリテーション過程」 講師：佐藤 信介 先生 (西広島リハビリテーション病院)	広島大学病院 リハビリテーション科
平成25年 6月13日(木) ～14日(金)	第56回「関西胸部外科学会学術集会」	広島国際会議場	テーマ「次世代への継承-for next Generation-」 特別講演1 「Mitral valve plasty for rheumatic and degenerative disease in Malaysia」 講師：Mohd Azhari Yakub 先生 (National Heart Institute, Kuala Lumpur, Malaysia) 特別講演2 「Mitral Plasty Belgium」 講師：Mark La Meir 先生 (University hospital Brussels, Belgium)	医歯薬保健学研究院 外科学
平成25年 6月20日(木)	第138回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「FDG-PETを用いた肺癌の治療戦略」 講師：宮田 義浩 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所) 「ゲノム安定性を司る分裂期チェックポイント関連分子による一次繊毛の形成と退縮」 講師：宮本 達雄 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	原爆放射線医科学研究所 事務局
平成25年 6月22日(土) ～23日(日)	第28回「中国四国ウイルス研究会」	広仁会館 大会議室	特別講演 「パラミクソウイルス・センダイウイルスのリバースジェネティクスの確立とベクター応用への展開」 講師：加藤 篤 先生 (国立感染症研究所) 「慢性レトロウイルス感染症による中枢神経障害の発生機序」 講師：齋藤 峰輝 先生 (川崎医科大学) 一般演題 23題、優秀発表賞 3名表彰	医歯薬保健学研究院 ウイルス学
平成25年 6月29日(土)	第9回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム	ホテルグランヴィア広島	セッションⅠ 炎症・再生 セッションⅡ NAFLD・免疫 セッションⅢ HBV セッションⅣ HCV 特別講演 「抑制性T細胞の産生機構：TGF-βとNR4a」 講師：吉村 昭彦 先生 (慶応義塾大学医学部微生物学免疫学教室 教授)	医歯薬保健学研究院 消化器・代謝内科学 茶山 一彰
平成25年 7月5日(金) ～6日(土)	第69回日本弱視斜視学会総会 第38回日本小児眼科学会総会 合同学会	広島国際会議場 大会議室	招待講演 「Optical Pearls and Pitfalls in Strabismus and Amblyopia (斜視・弱視診療における光学上のコツと落とし穴)」 講師：David Guyton, M.D(The Zanvly Krieger Professor of Pediatric Ophthalmology The Johns Hopkins Hospital, Wilmer Eye Institute, Baltimore, USA) 招待講演 「小児の腫瘍性疾患～現状と新たな治療の展開～」 講師：鈴木 茂伸 先生 (国立がん研究センター中央病院)	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 教授 木内 良明

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 7月5日(金) ～6日(土)	第69回 日本弱視斜視学会総会 第38回 日本小児眼科学会総会 合同学会	広島国際会議場 大会議室	受賞記念講演 「Phenotype-phenotype and genotyp-phenotype correlations in patients with idiopathic superior oblique muscle palsy」 講師：大久保 小百合 先生 「未熟児網膜症に対する硝子体手術後の高眼圧症例の検討」 講師：岩崎 千春 先生 (大阪大学) 「角膜混濁を伴う、前眼部形成不全の臨床像」 講師：重安 千花 先生 (国立病院機構東京医療センター感覚器センター、国立育成医療研究センター) 一般演題 83題	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 教授 木内 良明
平成25年 7月18日(木)	第139回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「造血幹細胞の自己複製と分化のスイッチングを制御するGemininの役割」 講師：安永 晋一郎 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「低線量・低線量率放射線による非標的効果の予備的知見」 講師：飯塚 大輔 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	原爆放射線医学研究所事務室
平成25年 7月19日(金)	広島プライマリ・ケアセミナー 第102回「めまい診療を学ぶ」	ANAクラウンプラザホテル広島	「めまい診療テクニック」危険なめまいの見分け方 黒川 勝己 先生 (川崎医科大学神経内科 准教授) 1. プライマリケア医の立場から 横林 賢一 先生 (広島大学病院総合内科・総合診療科) 2. 耳鼻咽喉科医の立場から 高本 宗男 先生 (JA広島総合病院 耳鼻咽喉科) 3. 脳神経外科医の立場から 木矢 克造 先生 (県立広島病院)	総合内科・総合診療科 田妻 進
平成25年 7月24日(金)	「心臓を診るⅡ」 ランゲルハンス島にける虹	ANAクラウンプラザホテル広島	テーマ：病態と治療 講演 1. 糖尿病と血管内皮障害 東 幸仁 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所ゲノム障害医学研究センター再生医学部門 教授) 2. 糖尿病患者の動脈硬化性疾患管理 江草 玄士 先生 (江草玄士クリニック) 3. 糖尿病合併冠動脈疾患の画像的特徴 林 康彦 先生 (土谷総合病院 循環器内科) 4. 冠動脈硬化の発症・進展阻止をめざした薬物治療 糖尿病専門医の立場から 大久保 雅通 先生 (内科(糖尿病)久安医院) 循環器専門医の立場から 栗栖 智 先生 (広島大学病院 循環器内科)	広島大学循環器内科 広島大学循環器内科同門会 広島大学循環器内科同門会 開業医部会 ノバルティスファーマ株式会社
平成25年 7月26日(金)	第38回「中国地区放射線影響研究会」	広仁会館 中会議室	特別講演 「人工ヌクレアーゼを用いた培養細胞および動物におけるゲノム編集」 講師：山本 卓 先生 (広島大学大学院理学研究科教授) 一般講演11題	第38回研究会世話人 松浦 伸也 (原爆放射線医学研究所)
平成25年 7月27日(土)	第60回広島病理集談会	広島大学 第3講義室	8題の外科材料の病理診断に関するカンファレンス	医歯薬保健学研究院 病理学研究室
平成25年 7月27日(土)	第9回高尿酸・メタボリックシンドロームリサーチフォーラム	ホテル日航福岡	一般演題 全8題 基調講演 「血管障害・代謝異常における尿酸の役割」 仲川 孝彦 先生	医歯薬保健学研究院 循環器内科学 教授 木原 康樹

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 7月27日(土)	第9回高尿酸・メタボリックシンドロームリサーチフォーラム	ホテル日航福岡	(京都大学大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター 慢性腎臓病研究ラボ (TMKプロジェクト) 特准教授) 特別講演 「動脈硬化研究の歩み」 北 徹 先生 (京都大学名誉教授・神戸市立医療センター中央市民病院 教授)	医歯薬保健学研究院 循環器内科学 教授 木原 康樹
平成25年 8月1日(木)	第3回心臓いきいきキャラバン研修会	安佐市民病院 WAPセンター	テーマ「患者、家族が安心できる心不全への療養支援」-地域連携は顔の見える関係作りから- 講演 座長：中野 良規 先生 (広島市立安佐市民病院 循環器内科) 講師：亀井 麻紀 先生 (IGL居宅介護支援事業所ゆうゆう主任介護支援専門員) 沖村 真奈美 先生 (安佐医師会 訪問看護ステーション管理者) 立石 純子 先生 (広島共立病院 看護部 副総看護師長) 事例検討 グループワーク	広島大学病院 心不全センター 安佐市民病院
平成25年 8月3日(土) ～10日(土)	INU看護ワークショップ	保健学 研究科棟 301、302、310号室、 基町団地、広仁会館 中会議室	テーマ「災害看護」 参加大学：広島大学、 ジェームスマディソン大学(アメリカ)、 フリンダース大学(オーストラリア)、 ロビーラ・イ・ビルジリ大学(スペイン)、 キョンヒ大学(韓国)、 マルメ大学(スウェーデン)	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山 美知子
平成25年 8月6日(火)	第3回心臓いきいきキャラバン研修会	JA尾道総合病院 5階大会議室	テーマ「地域で診る心不全」 -心筋梗塞・心不全手帳をもっと活用しよう- 特別講演 「病診連携キーポイントとしての『心筋梗塞・心不全手帳』」 -患者の懐中 心臓いきいきセンター- 木原 康樹 先生 (広島大学病院 循環器内科 診療科長・教授) 講演 「広島県心臓いきいき推進事業等について」 木村 秀則 先生 (広島県健康福祉局医療政策課主幹) 「ひろげよう、ひろしまのハート -心臓いきいきセンターと心不全センターの 取り組み-」 水川 真理子 先生 (広島大学病院心不全センター看護師) 「尾道市民病院における心筋梗塞連携パスへの 取り組みと今後の課題」 正木 未来 先生 (尾道市民病院 慢性心不全看護認定看護師) 「持ち歩こう！安心と健康 -「心筋梗塞、心不全手帳」が「私の手帳」 になるまで-」 富山 美由紀 先生 (尾道総合病院 慢性心不全看護認定看護師)	広島大学病院 心不全センター JA尾道総合病院
平成25年 8月7日(水)	第4回広島RAトータルケアフォーラム	リーガロイヤルホテル広島	「リウマチの新しい動きとクリニックの役割-早期診断から治療への導入-」 佐川 昭 先生 (佐川昭リウマチクリニック) 「関節リウマチに伴う骨脆弱性、骨破壊機序とその対策」 宗圓 聡 先生 (近畿大学医学部奈良病院)	医歯薬保健学研究院 整形外科

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 8月10日(日)	第9回西日本血管・機能研究会	ホテル日航福岡	一般演題 全14題 特別講演Ⅰ 「心血管イベント抑制に向けた新規抗凝固薬の可能性－Factor Xaと慢性炎症－」 佐田 政隆 先生 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部循環器内科学 教授) 特別講演Ⅱ 「血管内皮機能検査の現状と未来」 東 幸仁 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医学研究センター再生医科学部門 教授)	医歯薬保健学研究院 循環器内科学 教授 木原 康樹 共催：西日本血管・機能研究会 フクダ電子株式会社 ファイザー株式会社
平成25年 8月28日(水) ～9月3日(火)	広島県看護協会研修会 「指導者編」	保健学研究科棟 403室	広島県看護協会研修会 「指導者編 看護実践に活かすフィジカルアセスメント」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山 美知子
平成25年 8月29日(木) ～31日(土)	第5回日本RNAi研究会	グランドプリンス ホテル広島	第5回日本RNAi研究会 テーマ「Liquid biopsy promise for RNAi medicine」 基調講演 「動く遺伝子(トランスポゾン)から私達のゲノムを守る仕組み」 塩見 春彦 先生 (慶応義塾大学医学部分子生物学教室) ISEV特別シンポジウム1 「EXTRACELLULAR VESICLES IN NEURODEGENERATIVE DISEASES」 Andrew F. Hill 先生 (Institute, University of Melbourne) ISEV特別シンポジウム2 「EVPEDIA: AN INTEGRATED DATABASE OF HIGH-THROUGHPUT DATA (PROTEIN, mRNA, miRNA, AND LIPID) FOR SYSTEMIC ANALYSES OF PROKARYOTIC AND EUKARYOTIC EXTRACELLULAR VESICLES」 Yong Song Gho 先生 (Pohang University of Science and Technology) シンポジウム1 「新規核酸医薬の開発」 横田 隆徳 先生 (東京医科歯科大学・脳神経病態学分野) シンポジウム2 「低分子RNAの進化と抗ウイルス、抗バクテリア活性について」 金井 昭夫 先生 (慶應義塾大学・先端生命科学研究所) シンポジウム3 「大腸発癌関連多型8q24多型上の新規lincRNA, CCAT2について」 三森 功士 先生 (九州大学病院別府病院・外科) シンポジウム4 「哺乳類lincRNAによる核内構造体構築メカニズムとその意義」 廣瀬 哲郎 先生 (産業技術総合研究所・バイオメディカル研究部門) パネルディスカッション ワークショップ2題 企業セミナー3題 一般演題： 口演21題、ポスター26題	主催：日本RNAi研究会事務局 医歯薬保健学研究院 細胞分子生物学研究室 教授 田原 栄俊 共催：(公財)広島がんセミナー
平成25年 8月30日(金) ～31日(土)	第7回日本病院総合診療 医学会学術総会	ホテルグランヴィア 広島	理事長対談 丸山 泉 先生 (日本プライマリケア連合学会理事長) 林 純 先生 (日本病院総合診療医学会理事長) 厚生労働省講演	第7回日本病院総合診療 医学会事務局(総合内科・総合 診療科 田妻進)

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 8月30日(金) ～31日(土)	第7回日本病院総合診療 医学会学術総会	ホテルグランヴィ ア広島	「新たな専門医に関する仕組みと総合診療医に ついて」 北澤 潤 先生 (厚生労働省医政局医事課長) シンポジウム4題 「地域医療と総合診療～地域枠をどう育てるか～」 「不明熱を見直す」 「総合診療医がどのように救急医療と関わるか」 「総合診療専門医養成プログラム」 要望演題2題 「病院総合診療と臨床研究～その手法と実績を 問う～」 「浮腫の病態と治療～危険な浮腫を見抜く～」	第7回日本病院総合診療医 学会事務局(総合内科・総 合診療科 田妻進)
平成25年 8月31日(土)	第9回せとうち心臓核医 学研究会	広島グランドイン テリジェントホテ ル	一般演題2題 症例検討1題 症例提示3題 特別講演 「心臓核医学：日本における多施設研究の成果 を生かす」 中嶋 憲一 先生 (金沢大学医薬保健研究域 医学系 核医 学 准教授)	医歯薬保健学研究院 循環器内科学 共催：せとうち心臓核医学 研究会 日本メジフィジック ス株式会社
平成25年 8月31日(土)	第16回 「日本臨床腸内微生物学 会総会・学術集会」	広仁会館 大会議室	特別講演 「DNAが語る日本人の成立」 篠田 謙一 先生 (独立行政法人 国立科学博物館 人類研 究部) 教育講演 「発酵の歴史と臨床応用について」 小泉 武夫 先生 (NPO法人 発酵文化推進機構 理事長) シンポジウム テーマ「腸内微生物制御の可能性」 4題 一般演題 13題	広島大学病院 感染症科 大毛 宏喜
平成25年 8月31日(土) ～9月1日(日)	第17回眼創傷治癒研究会	グランドプリン スホテル広島1F 「宮島」	特別講演 「小胞体ストレスによる生体制御-発生、分化、 再生、疾患との関わり」 今泉 和則 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院分子 細胞情報学教授) 基調講演 「六角形への道のり」 崎元 卓 先生 (元日本大学医学部付属病院練馬光が丘病 院眼科教授) 一般演題11題	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 准教授 近間 泰一郎
平成25年 9月5日(木) ～6日(金)	2013年度日本放線菌学会 大会	メルバルク広島	2013年度日本放線菌学会大会 一般講演、ポスター発表、総会、受賞講演 招待講演 「Renewing hope in old drugs through pathway engineering」 Taifo Mahmud 先生 (オレゴン州立大学薬学部教授)	医歯薬保健学研究院 薬学分野 遺伝子制御科学研究室
平成25年 9月8日(日)	第16回広島県呼吸ケア看 護研究会	第5講義室	第16回広島県呼吸ケア看護研究会 テーマ「COPDについて」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山 美知子
平成25年 9月14日(土)	第17回中皮腫パネル	広島大学 第3講義室	10題の中皮腫関連疾患の臨床病理カンファレンス	医歯薬保健学研究院 病理学研究室 (後援 労働者健康福祉機構)
平成25年 9月19日(木)	第140回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「ヒストンH3の56番目リジン残基のアセチル化の 役割」 講師：大澤 亮介 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所) 「Role of ROCK in cardiovascular system from a translational view」 講師：野間 玄督 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	原爆放射線医科学研究所事 務室

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 9月25日(木)	Cardiovascular Scientific Exchange Meeting in Hiroshima	リーガロイヤルホテル広島	講演 「炎症と血管内皮機能」 東 幸仁 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医学研究センター再生医科学部門 教授) 特別講演 「腸管免疫・腸管細菌への介入による動脈硬化新規治療法の開発」 平田 健一 先生 (神戸大学大学院医学研究科内科学講座循環器内科学分野 教授) パネリスト 「DNA損傷・細胞老化と動脈硬化」 石田 万里 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院 心臓血管生理医学 講師) 「IgG4関連疾患と動脈硬化」 山本 秀也 先生 (広島大学病院循環器内科 臨床准教授)	医歯薬保健学研究院 循環器内科学 共催：アストラゼネカ株式会社
平成25年 9月26日(木)	広島プライマリ・ケアセミナー 第103回「プライマリーケア医が主役の心房細動治療の時代に向けて」	ホテルグランヴィア広島	「心房細動のプライマリケアについて」 中野 由紀子 先生 (広島大学病院循環器内科) 1. 脳神経内科専門医の立場から 仲 博満 先生 (県立広島病院) 2. 総合診療医の立場から 申畑 重行 先生 (広島大学病院総合内科・総合診療科) 3. 消化器専門医の立場から 岡信 秀治 先生 (中国労災病院)	総合内科・総合診療科 田妻 進
平成25年 9月27日(金)	第141回原医研セミナー	総合研究棟7階701セミナー室	「医療用iPS細胞バンクの展望と課題」 講師：木村 貴文 先生 (京都大学iPS細胞研究所)	原爆放射線医科学研究所事務室
平成25年 9月29日(日)	第21回 広島小児眼科懇話会	広島国際会議場 タリア2	斜視治療の考え方 講師：初川 嘉一 先生 (大阪府立母子保健総合医療センター 眼科 主任部長)	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 教授 木内 良明

人事異動

人事異動 平成25年4月2日～平成25年10月1日

発令 月日	異動 内容	氏名	異動前所属	異動前 職名	異動後所属・部門等	異動後 職名
4.11	退職	鎌田 伸之	大学院医歯薬保健学研究院	教授		
4.30	退職	畠中 史幸	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
4.30	退職	玉田 紘太	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
5.1	昇任	仙谷 和弘	大学院医歯薬保健学研究院	助教	大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門（分子病理学）	講師
5.1	採用	大島 久美			原爆放射線医学研究所放射線災害医療研究センター	講師
5.1	採用	石川 正和			病院 皮膚・運動器診療科	助教
5.31	退職	関 貴弘	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
5.31	退職	森田 明典	原爆放射線医学研究所	助教		
6.1	採用	浅野 智志			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門（細胞分子薬理学）	助教
6.1	配置換	西川 里織	教育・国際室コラボレーションオフィス	研究員	大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門（小児科学）	特任助教
6.1	配置換	平田 涼子	病院	歯科診療医	病院 口腔健康発育歯科	助教
6.30	退職	土岐 茂	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
6.30	退職	中村 毅	病院	助教		
6.30	退職	石川 美保	病院放射線部	助教		
7.1	昇任	谷本 幸太郎	病院	講師	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（歯科矯正学）	教授
7.1	採用	金山 範明			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（精神神経医学）	特任助教
7.1	採用	白藤 俊彦			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門（神経薬理学）	特任助教
7.1	配置換	土肥 栄祐	病院	医科診療医	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（精神神経医学）	特任助教
7.1	採用	淵上 学			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（精神神経医学）	特任助教
7.1	採用	大澤 亮介			原爆放射線医学研究所放射線影響評価研究部門	助教
7.1	採用	久米 悟士			原爆放射線医学研究所ゲノム障害医学研究センター	特任助教
7.1	配置換	青木 志郎	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教	病院 脳・神経・精神診療科	助教
7.23	採用	宿南 知佐			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門（生体分子機能学）	教授
8.1	採用	岡田 剛			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（精神神経医学）	特任助教
8.1	採用	堀越 保則			原爆放射線医学研究所放射線障害機構研究部門	助教
8.1	昇任	加来 真人	大学院医歯薬保健学研究院	助教	病院 口腔健康発育歯科	講師
8.31	退職	内田 直里	大学院医歯薬保健学研究院	講師		
8.31	退職	森信 繁	大学院医歯薬保健学研究院	特任教授		
8.31	退職	坪井 文	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
8.31	退職	向井 百合香	病院	助教		
9.1	昇任	上村 健一郎	病院	助教	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（外科学）	講師
9.1	採用	吉松 梨香			病院放射線部	助教
9.20	配置換	味八木 茂	病院再生医療部	講師	病院未来医療センター	講師
9.20	配置換	亀井 直輔	病院再生医療部	助教	病院未来医療センター	助教
9.20	配置換	中島 歩	病院再生医療部	特任助教	病院未来医療センター	特任助教
9.30	退職	信實 孝洋	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
10.1	採用	三好 博史			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門（産科婦人科学）	准教授
10.1	採用	鷺見 圭輔			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門（歯科矯正学）	助教
10.1	採用	Batmunkh Bundelger			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門（心血管生理医学）	特任助教
10.1	配置換	永原 隆吉	病院	歯科診療医	大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門（歯周病態学）	特任助教
10.1	採用	西村 瑠美			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門（公衆口腔保健学）	特任助教
10.1	採用	三村 純代			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門（口腔生物工学）	特任助教
10.1	採用	川見 昌史			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門（医療薬理学）	特任助教
10.1	採用	横山 雄太			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門（臨床薬物治療学）	特任助教
10.1	配置換	鬼武 美幸	病院	医科診療医	病院 成育診療科	助教
10.1	採用	信實 孝洋			病院 泌尿・生殖器診療科	助教
10.1	採用	岡部 智行			病院 放射線部	助教

大学院修了者一覧

博士課程前期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.9.25	医歯薬学総合研究科	薬科学専攻	かく ていしん	郭 伝鑫	Functional analysis of exopolysaccharide biosynthetic genes from <i>Lactobacillus brevis</i> KB290
25.9.25	医歯薬学総合研究科	薬科学専攻	でん じん	鄧 晶	Involvement of matrix metalloproteinase (MMPs) in the basic fibroblast growth factor (FGF-2) -induced glial cell line-derived neurotrophic factor (GDNF) secretion

博士課程前期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.9.25	保健学研究科	保健学専攻	まつうら あさこ	松浦 亜沙子	診療所におけるプライマリ・ケア看護師の役割
25.9.25	保健学研究科	保健学専攻	せのお やすこ	妹尾 安子	全身麻酔中の仰臥位手術における上半身加温がもたらす下肢末梢温への影響

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.7.25	保健学研究科	保健学専攻	ふかざわ たかひろ	深澤 賢宏	Electrical stimulation accelerates neuromuscular junction formation through ADAM19/neuregulin/ErbB signaling in vitro (電気刺激はADAM19/neuregulin/ErbBシグナル伝達系を介し神経筋接合部形成を促進する)

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.9.25	医歯薬学総合研究科	薬学専攻	いのうえ まさき	井上 雅己	自己免疫疾患の分子病態解明に向けた新規TNFR2アダプター分子アミノペプチダーゼP3の機能解析

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	たつがみ まさな	辰上 雅名	Bile Acid Promotes Intestinal Metaplasia and Gastric Carcinogenesis (胆汁酸の腸上皮化性と胃発癌に及ぼす影響)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	しらね まさこ	白根 雅子	Influence of ocular stiffness on intraocular pressure estimation using Goldmann Applanation Tonometry (ゴールドマン圧平眼圧計による眼内圧推定への眼剛性の影響)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	あおき よしろう	青木 義朗	Involvement of ribonucleotide reductase-M1 in 5-fluorouracil-induced DNA damage in esophageal cancer cell lines (食道癌細胞株における5-フルオロウラシルにより誘導されるDNA障害へのリボスクレオチドリダクターゼM1の関与)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	かがわ こうた	香川 幸太	Electrocorticographic-histopathologic correlations implying epileptogenicity of dysembryoplastic neuroepithelial tumor (DNT) (胚芽異形成性神経上皮腫瘍におけるてんかん原性領域を意味する頭蓋内脳波所見と組織所見の相関性)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	たかた さやか	高田 さやか	Clinical significance of combined diagnosis with both surface pattern and vascular pattern, and its characteristics in each growth type of colorectal tumor. (NBI拡大観察における大腸腫瘍の表面模様と血管所見の総合評価の臨床的重要性と発育様式別の特徴) 1. Characterization of colorectal tumors using narrow-band imaging magnification: Combined diagnosis with both pit pattern and microvessel features. (大腸腫瘍のNBI拡大観察所見分類: pit patternと微小血管構造を含めて) 2. Characteristic magnifying narrow-band imaging features of colorectal tumors in each growth type. (発育様式別にみた大腸腫瘍のNBI拡大観察所見の特徴)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	てらおか よしふみ	寺岡 義布史	Expression of recipient CD47 on rat insulinoma cell xenografts prevents macrophage-mediated rejection through SIRP α inhibitory signaling in mice (異種移植におけるマクロファージ性拒絶抑制効果に対するレシビエント種CD47遺伝子導入の有用性)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	まつもと やすたか	松本 康貴	Vorinostat ameliorates impaired fear extinction possibly via the hippocampal NMDA-CaMKII pathway in an animal model of posttraumatic stress disorder (Vorinostatは外傷後ストレス障害の動物モデルにおいて、おそらく海馬のNMDA-CaMKII経路を介して、恐怖記憶の消去障害を改善する)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	みつはら たかふみ	光原 崇文	Simulated microgravity facilitates cell migration and neuroprotection after bone marrow stromal cell transplantation in spinal cord injury (微少重力環境は脊髄損傷における骨髄間質細胞移植において細胞の遊走と神経保護を促進する)

大学院修了者一覧

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.9.5	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	いとう かつら	伊藤 桂	Effectiveness of Cervical Cancer Screening Based on a Mathematical Screening Model using data from the Hiroshima Prefecture Cancer Registry (広島県地域がん登録データを用いたがん検診の数理モデルに基づく子宮頸がん検査の有効性)
25.9.5	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ますもと ひろし	増本 弘史	Fetal topographical anatomy of the female urethra and descending vagina: A histological study of the early human fetal urethra (女性尿道と膣の形成に関する局所解剖: ヒト胎児を用いた組織学的研究)
25.9.5	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	すぎもと たかみち	杉本 太路	Ultrasonographic nerve enlargement of the median and ulnar nerves and the cervical nerve roots in patients with demyelinating Charcot - Marie - Tooth disease: distinction from patients with chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy (脱髄型シャルコー・マリー・トゥース病患者における超音波検査による正中神経、尺骨神経、頸神経根の神経肥厚の検出: 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー患者との鑑別)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ほとむんふ ぶむでるげる	Batmunkh Bumdelger	Induction of Timpl in Smooth Muscle Cells during Development of Abdominal Aortic Aneurysms (腹部大動脈瘤形成における、平滑筋細胞でのTimpl遺伝子誘導)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	じ きゅう	時 牛	Combination therapy with NS5A, NS3 and NS5B inhibitors on different genotype of hepatitis C virus in human hepatocyte chimeric mice. (HCV感染マウスを用いたNS5A, NS3またはNS5B阻害剤併用療法のgenotype間での抗ウイルス効果の検討)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	つねまつ たかあき	常松 貴明	Aurora-A controls pre-replicative complex assembly and DNA replication by stabilizing geminin in mitosis (Aurora-A は細胞分裂期においてgeminin を安定化することで複製前複合体形成やDNA複製を制御する)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	びんい しい ぬるざに らり	Bini Siti Nur Zawani Rosli	HBp17/FGFBP-1 Expression is Down-regulated by 1 α , 25 (OH) $_2$ D $_3$ through NF- κ B pathway in Oral Squamous Cell Carcinoma Cell Lines. (口腔扁平上皮癌細胞におけるHBp17/FGFBP-1の発現は1 α , 25 (OH) $_2$ D $_3$ によってNF-kB経路を介して抑制される。)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ぬーういん たん とん	Nguyen Thanh Tung	Immunohistochemical expression of HBp17/FGFBP-1, FGF-1, FGF-2, CD34, p53, pRB, and Ki67 in Ameloblastomas (エナメル上皮腫におけるHBp17/FGFBP-1, FGF-1, FGF-2, CD34, p53, pRB, およびKi67タンパクの免疫組織化学的発現の検討)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.5.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	うえの としのり	上野 敏憲	Mesenchymal stem cells ameliorate experimental peritoneal fibrosis by suppressing inflammation and inhibiting TGF- β 1 signaling (間葉系幹細胞は炎症抑制およびTGF- β 1シグナルの抑制を介し腹膜線維化を改善させる)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	しげもと のりふみ	繁本 憲文	A novel metallo- β -lactamase, IMP-34, in Klebsiella isolates with decreased resistance to imipenem (イミペネムに対する感受性が低下したクレブシエラ属が保有する新規メタロ β ラクタマーゼ, IMP-34)
25.5.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ひらた おさむ	平田 修	Heterozygosity for the Y701C STAT1 mutation in a multiplex kindred with multifocal osteomyelitis (多発性骨髄炎母子例で同定したSTAT1新規ヘテロ接合性遺伝子変異Y701Cとその機能解析)
25.9.5	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	みかみ しんすけ	三上 慎祐	Autologous Bone-Marrow Mesenchymal Stem Cell Implantation and Endothelial Function in a Rabbit Ischemic Limb Model (ラビット下肢虚血モデルに対する自家骨髄間葉系幹細胞移植は血管内皮機能を改善する)
25.9.5	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	おした ひでと	尾下 豪人	RASEF is a novel diagnostic biomarker and a therapeutic target for lung cancer (RASEFは肺癌の新たな診断マーカー及び治療標的である)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	いしかわ えみ	石川 絵海	性ホルモン分泌障害が成長期マウスの記憶・学習能力に及ぼす影響
25.9.25	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	のだ のりあき	野田 礼彰	Monitoring of oral and nasal exhaled nitric oxide in eosinophilic chronic rhinosinusitis: a prospective study (好酸球性副鼻腔炎における呼気中一酸化窒素濃度のモニタリングについての検討)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ないちやう じょこ せいでいとう	Naychov Zheko Dimitrov	TIMP-1 c.T372C Genetic Polymorphism as a Possible Predictor for Acute Aortic Dissection (TIMP-1 c.T372C遺伝子多型による急性大動脈解離の予測可能性)
25.9.25	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	あんどう りずいきあわん	Andra Rizqiawan	Snail-dependent upregulation of Galectin-1 promoted to complete EMT process in Snail-expressing squamous cell carcinoma cells (Snail依存的なGalectin-1発現誘導はSnailによるEMT誘導に関与する)

平成25年度文部科学省科学研究費(補助金分)採択一覧

(注) 所属欄の(医)は医学分野、(歯)は歯学分野、(薬)は薬学分野、(保)は保健学分野を示す。

基盤研究 (A)

研究課題名	所 属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
小胞体ストレス応答による生体制御の分子基盤解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	今泉 和則	13,000,000
CD47 - SIRP α シグナルを介した癌細胞免疫回避機構の解明とその制御法の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	大段 秀樹	10,600,000
新規細胞間コミュニケーション因子であるエクソソームによる組織再生機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	越智 光夫	17,200,000
国際共同研究による間質性肺炎の新規バイオマーカーの開発と創薬の試み	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	河野 修典	9,600,000
看護師と医療保険者の役割機能拡大による新たな慢性疾患ケア提供モデルの構築	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	森山 美知子	8,600,000
若齢期放射線被曝による晩発障害に関する社会医学的研究	原爆放射線医学研究所	教授	大瀧 慈	8,500,000
小児肝がん研究グループによるアジア地域の小児肝がん調査と国際共同研究基盤整備	自然科学研究支援開発センター	教授	檜山 英三	8,400,000
ゲノミクスとセロミクスを用いた小児腫瘍の分子標的探索—がん幹細胞を標的として—	自然科学研究支援開発センター	教授	檜山 英三	10,900,000

基盤研究 (B)

研究課題名	所 属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
複合体解析を駆使したインスリン抵抗性と慢性炎症の分子メカニズム解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	浅野 知一郎	3,100,000
微小重力環境を用いた下垂体幹細胞の培養技術の開発—人工下垂体への応用を目指して—	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	栗栖 薫	2,700,000
新規ストレス経路による NF- κ B 活性化制御機構と発癌	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	鎌田 英明	3,700,000
転写因子 DECI による血圧制御機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	研究員	加藤 幸夫	3,200,000
変形性頸関節症における関節潤滑能の改善と軟骨修復・再生の有用性	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	名誉教授	丹根 一夫	2,700,000
ヒト肝臓動物モデルを利用した化学物質のヒトリスク評価	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	太田 茂	4,100,000
蛍光性リン酸基結合タグ分子を用いたプロテインキナーゼ反応の解析法	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	小池 透	2,300,000
遺伝子導入による新規肺上皮細胞モデルの作出と薬物の肺移行・肺毒性研究への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	高野 幹久	2,500,000
抗がん剤・耐性克服剤開発のためのタイ国産植物の調査・試料収集と薬効の科学的検証	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	高野 幹久	3,200,000
がん細胞に老化を誘導し増殖・転移を抑制するマイクロ RNA のメカニズムの解明	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	田原 栄俊	5,500,000
有機スズによる GluR2 発現減少メカニズムの解明と in vivo 神経影響評価	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	古武 弥一郎	4,400,000
地域間「感染距離」に基づく学校感染症対策のための Web 上双方向システムの開発	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	梯 正之	1,200,000
随意運動に先行する脳活動の同定—セントラルコマンド発生機構の探索	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	松川 寛二	3,900,000
神経機能再生における ES 細胞治療とリハビリテーションの相加効果	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	弓削 類	4,400,000
分泌型 microRNA による運動器疾患への治療戦略	病院 (医)	准教授	安達 伸生	3,200,000
NF- κ B デコイをバイオプロセッシングした新しい核酸医薬型人工骨の創製	病院 (歯)	講師	久保 隆靖	4,300,000
中心体成熟・維持メカニズムの機能不全が骨髄系腫瘍の発症・進展に果たす役割の解析	原爆放射線医学研究所	教授	稲葉 俊哉	4,300,000
ヒストン脱メチル化酵素 Fbx10 の脱制御による白血病発症機構の解析	原爆放射線医学研究所	教授	本田 浩章	4,300,000
カザフスタンのセミパラチンスク核実験場やウラン鉱山地域の被ばく線量評価と健康影響	原爆放射線医学研究所	名誉教授	星 正治	4,800,000

研究活動スタート支援

研究課題名	所 属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
マイクロ RNA による骨組織細胞間ネットワーク	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	竹井 悠一郎	1,100,000
菌性感染による非アルコール性脂肪性肝炎病態増悪メカニズムの解明と歯科治療の効果	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	古庄 寿子	1,100,000
ケミカルジェネティクスを基盤とした生理活性物質のメカニズム解析法の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	助教	山野 喜	1,100,000
アンジオテンシン II 代謝産物によるアルドステロン分泌制御機構の研究	病院 (医)	助教	沖 健司	1,100,000
メタボローム解析による肺癌細胞の浸潤・転移に関わる分子機構の解明	病院 (医)	医科診療医	笹田 伸介	1,100,000
ヒト異種糖鎖欠損免疫不全マウスを用いた抗体関連拒絶反応機構の解明	病院 (医)	医科診療医	田原 裕之	1,100,000
低分子リガンドによる TrkB トランスアクチベーションを用いた歯周組織再生療法開発	病院 (歯)	助教	加治屋 幹人	1,100,000
血管誘導能に優れた未分化間葉系幹細胞の骨再生技術の確立と顎裂閉鎖治療への展開	病院 (歯)	歯科診療医	鷺見 圭輔	1,100,000
SK-0403 による DPP4 阻害を媒介した抗炎症作用の分子機序の解明	病院 (歯)	歯科診療医	新城 尊徳	1,100,000
EC による心血管イベント抑制効果の詳細な分子機序の解明と生体における作用の検討	病院 (歯)	歯科診療医	永安 慎太郎	1,100,000
顎整形力を用いた下顎骨の再生と成長発育治療の探索	病院 (歯)	歯科診療医	林 英貴	1,100,000
潤滑機能蛋白 SZP の発現調節機構の解明と顎関節症に対する新規治療薬の開発	病院 (歯)	歯科診療医	光吉 智美	700,000
矯正歯科治療中の疼痛緩和を目的とした基礎的研究	病院 (歯)	歯科診療医	村崎 恭子	1,100,000
遺伝性顎口腔疾患特異的ヒト iPS 細胞の無血清・無フィーダーでの樹立と発症機序研究	病院 (歯)	歯科診療医	山崎 佐知子	1,100,000
機能性アモロゲンペプチドによる歯周組織代謝活性機構の解明と歯根吸収予防への応用	病院 (歯)	歯科診療医	吉見 友希	1,100,000
新技術レーザープロテオミクスにより同定された乳癌浸潤突起特異的分子の解析	原爆放射線医学研究所	助教	見前 隆洋	1,100,000

新学術領域研究

研究課題名	所 属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
大脳皮質神経回路の生後発達に関わるメカニズムの解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	橋本 浩一	3,900,000
固液界面におけるタンパク質間相互作用に及ぼす分子クラウディングの影響	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	加藤 功一	3,000,000
がん微小環境ネットワークにおける細胞外小胞エクソソームの機能解明	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	田原 栄俊	4,300,000

平成25年度文部科学省科学研究費(補助金)採択一覧

新学術領域研究

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
トップダウンリン酸化プロテオミクスを指向したアフィニティー磁気ビーズの創出	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	准教授	木下 英司	4,100,000
銅輸送タンパク質キャリアーを用いたチロシナーゼ反応機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	准教授	的場 康幸	2,800,000
MDS 原因遺伝子の同定と解析を通じた細胞分化制御システムの解明	原爆放射線医科学研究所	教授	稲葉 俊哉	23,500,000
オプチニューリン遺伝子異常による脳内環境の変化と神経変性の関わりの解明	原爆放射線医科学研究所	教授	川上 秀史	16,500,000
造血幹細胞の自己複製と分化の誘導を掛け分ける分子基盤	原爆放射線医科学研究所	教授	瀧原 義宏	4,600,000
キネシン分子が制御するシリア形成と中心小体接着の分子機構	原爆放射線医科学研究所	教授	松浦 伸也	4,500,000
Geminin 発現量を標的とした白血病幹細胞制御法の開発への基盤研究	原爆放射線医科学研究所	准教授	安永 晋一郎	3,000,000

平成25年度文部科学省科学研究費(基金分)採択一覧

(注) 所属欄の(医)は医学分野、(歯)は歯学分野、(薬)は薬学分野、(保)は保健学分野を示す。

基盤研究 (C)

研究課題名	所 属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
体節に由来する軸骨格の部域特異的形態形成と四肢形成の関連：その個体発生と系統発生	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	青山 裕彦	1,200,000
CTにおける放射線被ばくの DNA 損傷に対する影響の検討	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	栗井 和夫	1,200,000
悪性高熱症の発症予防に関する実験的研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	河本 昌志	900,000
1次リンパ組織の微小環境特異的エピジェネティック制御の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	菅野 雅元	800,000
メタボリック症候群を基盤とする非虚血性慢性心不全の病態解明と疾患概念の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	木原 康樹	1,300,000
自然免疫を抑制するウイルス蛋白質の構造と作用機構の解析	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	坂口 剛正	1,300,000
地域と出生年を考慮した肝がん死亡の経年推移と将来予測に関する国際数理疫学研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	田中 純子	1,400,000
前立腺癌の神経内分泌分化に関わる新規バイオマーカーの同定と診断・治療への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	松原 昭郎	1,200,000
動脈硬化の分子機序に基づいた動脈瘤形成機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	吉橋 正生	1,900,000
自然免疫系によるウイルス感染認識の実際とその回避	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	入江 崇	1,400,000
胃消化型腺癌における基底膜接着幹細胞の同定および生物学的意義と胃腸型形質発現	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	大上 直秀	1,100,000
癌・間質相互作用を標的とした胃癌転移に対する新しい治療法の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	北台 靖彦	1,000,000
miRNAを含むエクソソームを用いた骨腫瘍治療への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	下瀬 省二	1,500,000
鼻副鼻腔における一酸化窒素のバイオモニタリングによる好酸球性炎症の解析	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	竹野 幸夫	1,500,000
3次元ゲル培養法を応用した角膜神経誘導法の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	近間 泰一郎	2,100,000
汗アレルギーに対する診断法の確立とスキンケアへの応用	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	信藤 肇	1,000,000
胆管癌の抗癌剤代謝関連酵素発現と感受性解析による個別化治療の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	村上 義昭	1,400,000
子宮筋腫に対する凍結療法における画像診断学及び組織学的検討	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	准教授	山上 卓士	2,300,000
間質性肺炎の新たな血清マーカーの開発と治療戦略の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	石川 暢久	1,400,000
酸化ストレス応答のマスター転写因子 Bach1 を標的とした心血管疾患治療の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	石田 隆史	1,200,000
血液透析患者における肝炎ウイルス感染と生命予後に関する疫学研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	片山 恵子	500,000
神経-角膜上皮細胞の共培養システムによる神経麻痺性角膜症の病態解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	高 知愛	100,000
心臓前駆細胞の機能解析	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	小久保 博樹	2,000,000
大腸癌病状発達の発病過程における分子病理学的制御の解明と鑑別診断への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	仙谷 和弘	1,300,000
CD24 発現制御による胃癌治療法への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	田邊 和照	1,400,000
メタボリック症候群と前立腺癌に関与する FGF の分子機構解明と新たな治療戦略確立	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	講師	亭島 淳	1,500,000
発作時脳磁図データの周波数解析-非侵襲的臨床検査法としての確立-	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	飯口 幸治	700,000
近世日本天文歴史学の基礎的研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	川和田 晶子	900,000
GPR3 の神経分化メカニズム解析と脳虚血に対する新規神経前駆細胞移植療法への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	田中 茂	1,300,000
造血幹細胞・iPS 細胞由来 TRAIL 陽性 NK 細胞による肝癌免疫細胞療法法の基礎研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	田中 友加	1,400,000
プロリン異性化酵素 Pin1 と肥満発症との関係解明及び創薬への展開	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	中津 祐介	1,300,000
Optineurin による筋萎縮性側索硬化症発症機序の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	永野 義人	1,700,000
細胞保護的ミクログリアの選別・機能解析と神経疾患治療への発展	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	秀 和泉	1,300,000
インフルエンザ肺炎の重症化メカニズムの解明~その治療を目指して~	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	福士 雅也	1,300,000
リアノジン受容体に関連する先天性筋疾患が悪性高熱症を発症する可能性	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	安田 圭道	900,000
悪性脳腫瘍に対する VEGF 阻害剤投与方法の画像診断法の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	山崎 文之	1,900,000
地域枠出身医師の進路に関するコホート研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	非常勤准教授	松本 正俊	700,000
確率共鳴理論から開発した触覚が向上する内視鏡外科デバイスの臨床応用	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	特任講師	恵木 浩之	1,200,000
ホウ素結合標的アデノウイルスベクターを用いた中性子捕捉療法の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	研究員	濱 聖司	800,000
嚥下時の口腔内圧変化による臨床的嚥下機能診断システムの確立	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	天野 幸昭	800,000
全身麻酔要素である鎮痛・筋弛緩・不動化における脊髄痛覚・運動ニューロンの役割解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	入船 正浩	800,000
アトピー性皮膚炎感染黄色ブドウ球菌の病原性基盤	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	菅井 基行	2,000,000
歯科衛生士の離職をもたらす因子の解析と、離職防止の方略の策定	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	竹本 俊伸	500,000
間葉系幹細胞移植による骨再生技術の最適化と顎裂閉鎖治療への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	谷本 幸太郎	800,000
骨・歯科疾患における多臓器連関「FGF23-可溶性型 Klotho システム」の研究	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	吉子 裕二	1,300,000
形態付与可能な再生3要素複合体ビーズの重度破壊歯周組織再生における有用性	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	准教授	柴 秀樹	1,400,000
骨伝導性と破骨細胞吸収性を併せ持つ高機能型 GBR 複合膜の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	准教授	武知 正児	1,300,000
認知症高齢者の簡易口腔機能定量検査の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	准教授	津賀 一弘	1,500,000
疾患責任遺伝子産物 TMEM16E タンパクの安定化による疾患オンセット機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	准教授	飛梅 圭	900,000
歯周病原細菌感染による非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) 病態増悪機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	准教授	宮内 睦美	1,600,000
最適とろみ濃度決定のための口腔・咽頭機能アセスメント	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	准教授	吉川 峰加	1,000,000
磁場を利用した骨髄間葉系幹細胞の凍結保存法の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	講師	加来 真人	1,300,000
生体にやさしい歯冠用コンポジットレジン複合型ジルコニアクラウンの臨床応用に向けて	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	講師	下江 幸司	1,500,000
革新的モーショントラッキング解析に基づいた新しいエビテラーゼ製法法の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	講師	田地 豪	900,000
糖尿病患者における歯内疾患悪化メカニズムの解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	内田 雄士	1,200,000
唾液腺の管腔構造形成・維持における Hippo シグナル伝達経路の機能解析	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	北川 道憲	1,200,000
新規細胞内輸送調節分子を介した疼痛制御機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	北山 友也	1,300,000
バイオ再生歯実現への優れたエナメル質形成幹細胞を獲得する	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	呉本 晃一	1,100,000
口腔癌細胞自身が発現する VEGF 受容体シグナルを標的とした新しい治療法の開発研究	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	小泉 浩一	1,100,000
無歯顎者に応用する単独インプラント支持オーバーデンチャーの治療指針の作成	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	是竹 克紀	1,200,000
放射線照射メタカによる骨代謝障害予防法の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	尾花 昌彦	1,100,000
ヒト唾液腺腫瘍における RHAMM 遺伝子の発現及び機能解析	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	重石 英生	900,000
歯周組織におけるセマフォリンの発現と病態との関連	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	島津 篤	1,700,000
トパミン受容体サブタイプの選択的リガンドを応用した新しい全身麻酔法の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	清水 慶隆	800,000
trkB シグナルを介した炎症制御メカニズムの解明と歯周炎治療への展開	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	武田 克浩	1,600,000
高付加型ポリリン酸を用いたインプラント周囲炎骨欠損に対する再生療法	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	土井 一矢	1,800,000

平成25年度文部科学省科学研究費(基金分)採択一覧

基盤研究 (C)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
機能的抗菌作用を有する歯科材料の研究・開発	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	野村 雄二	900,000
う蝕原因菌を特異的に溶解する新規溶菌酵素 Aml の作用メカニズムの解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	林 幾江	700,000
顎整形力を用いた下顎頭再生機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	藤田 正	1,300,000
歯髄で高発現するホメオボックス遺伝子 MSX ファミリーの機能解析	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	藤本 勝巳	1,600,000
遺伝子改変マウスを用いた TMEM16E 分子の機能の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	水田 邦子	1,500,000
ホモ接合プロトタイプ法による侵襲性歯周炎の疾患関連遺伝子同定	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	水野 智仁	1,100,000
幼少期ストレスが発達期脳神経細胞の転写・翻訳制御に及ぼす影響 - 自閉症との関連 -	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	光畑 智恵子	1,100,000
乳癌細胞由来 Klotho 下流因子による骨・歯の石灰化調節についての研究	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	南崎 朋子	1,300,000
海洋生物由来生理活性物質の探索と口腔癌幹細胞をターゲットとした分子標的薬への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	吉岡 幸男	1,200,000
Toll 様受容体に注目した三叉神経領域の病態発症メカニズムの解明	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	准教授	渡邊 峰朗	1,200,000
歯周病菌の病原性を不活化する麹菌由来物質の構造と機能	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	杉山 政則	2,000,000
イノシトールリン脂質脱リン酸化酵素欠損細胞を用いた小胞輸送系の解析	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	樋木 修	900,000
血中小麦アレルゲン定量法の開発とその臨床応用	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	松尾 裕彰	1,000,000
沖繩亜熱帯植物由来の新規抗ウイルス活性化化合物の探索研究	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	松浪 勝義	1,000,000
PK / PD 理論と標的臓器の治療目標達成確率を指標とした抗菌剤の最適投与法の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	教授	森川 則文	800,000
抗菌薬併用時の標的臓器 PK モデル解析と微生物学的 PD 評価に基づく感染治療の最適化	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	猪川 和朗	1,100,000
抗結核薬 D-サイクロセリンの生合成遺伝子を利用した創薬研究	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	熊谷 孝則	1,700,000
[L.n.] 双極子活性種の発生の開発と合成反応への展開	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	佐々木 道子	1,300,000
アミノグリコシド腎毒性を導く初発分子の同定とそれを標的とした腎毒性防御法の最適化	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	永井 純也	1,100,000
小胞体機能制御による生活習慣病治療戦略	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	講師	細井 徹	1,600,000
薬物治療最適化に向けたセルフマイクロモニタリング系の開発と在宅・薬局での実践	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	助教	池田 佳代	1,300,000
広域分子量タンパク質群のリン酸化動態を追跡できるリン酸基親和性電気泳動ゲルの開発	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	助教	木下 恵美子	1,300,000
薬物による肺上皮細胞障害と II 型 - I 型分化転換および上皮間葉転移との関連解析	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	助教	湯元 良子	1,300,000
植物乳酸菌 LP28 による体内脂肪蓄積抑制の分子機構解明とヒト臨床試験による検証	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	特任准教授	東川 史子	1,200,000
植物乳酸菌による口腔内バイオフィーム形成阻害の分子機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	特任講師	野田 正文	1,100,000
膝前十字靭帯損傷のハイリスク選手に対する 90 度側方カッピング動作の分析	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	浦邊 幸夫	1,200,000
男性労働者のソーシャル・キャピタルに注目した職域から地域に繋がる健康支援の研究	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	小林 敏生	1,100,000
脳科学的根拠のある利き手・非利き手別リハビリテーションプログラムの開発	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	砂川 融	800,000
病児保育への障害児のレスパイトケア併合による小児の利益及び就労と育児の調和推進	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	祖父江 育子	900,000
変形性膝関節症の疼痛はラテラルラストが要因か？疼痛を予防する新型装具の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	出家 正隆	2,000,000
保健師の家族面接力を高める ICT 教育プログラムの開発	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	中谷 久恵	500,000
高齢者の活動的で生きがいのある生活を支援する心理・社会的アプローチの構築	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	花岡 秀明	1,000,000
がん化学療法に関連した認知機能障害に対する教育および速度フィードバック療法の効果	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	教授	宮下 美香	1,200,000
新たな呼吸リハビリテーションを展開するために必要な唾液酸化ストレス指標の確立	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	准教授	関川 清一	800,000
看護実践力育成モデルの構築：先行・帰結因子の探求	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	准教授	高瀬 美由紀	1,100,000
高齢介護者の心理・社会的孤立予防のためのアセスメント方法と支援モデルの開発	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	准教授	永井 眞由美	900,000
母親退院から産後 6 か月間における母乳育児継続要因 - 母親の視点からみた検討 -	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	講師	藤本 紗央里	800,000
膝関節回旋角度計の開発 - 膝前十字靭帯損傷による回旋不安定性の精密計測 -	病院 (医)	教授	木村 浩彰	400,000
滑膜線維芽細胞の脂肪分化誘導における上皮間葉移行分子機序の解明	病院 (医)	教授	杉山 英二	1,500,000
治療効果予測システムの開発	病院 (医)	教授	杉山 一彦	1,000,000
劣化脂質による胆道がん発症機構とその制御に関する検討	病院 (医)	教授	田妻 進	1,400,000
ヒト脂肪組織由来幹細胞を用いた新たな骨格筋再生療法の開発	病院 (医)	教授	横田 克典	1,100,000
術中判断を可能にする心房細動外科治療時の電気生理診断法の確立と低侵襲術式の開発	病院 (医)	講師	今井 克彦	500,000
各種老化因子の制御による加齢性内耳障害の予防・治療法開発の分子生物学的研究	病院 (医)	講師	工田 昌也	1,200,000
異時相画像データおよび非剛体変形統合法を用いた低線量冠動脈 CT の開発	病院 (医)	講師	立神 史稔	1,300,000
脳血管性うつ病の神経回路網の異常と抑うつ気分、アパシーとの関連	病院 (医)	講師	山下 英尚	1,000,000
インスリン抵抗性は冠動脈疾患と弁膜病変合併の促進因子である	病院 (医)	講師	山本 秀也	500,000
間葉系幹細胞による肝臓内免疫細胞の腫瘍グラフト傷害抑制メカニズムの解明	病院 (医)	助教	石山 宏平	1,400,000
胃 SM 癌の術前転移予測と分子病理マーカーによる新たな内視鏡的根治判定基準の開発	病院 (医)	助教	岡 志郎	600,000
大腸癌肝転移に対する新規分子標的治療法の開発	病院 (医)	助教	小林 剛	1,500,000
64 列検出器 CT を用いた海綿骨骨梁構造解析による骨粗鬆症性脊椎骨折のリスク評価	病院 (医)	助教	高須 深雪	300,000
磁気ターゲットングを利用した脊椎再建材料による脊椎再生	病院 (医)	助教	田中 信弘	700,000
自然免疫反応増強のメカニズム解析と臨床応用	病院 (医)	助教	徳本 憲昭	1,500,000
分泌型マイクロ RNA による血管新生を基軸とした運動器損傷の新たな治療戦略	病院 (医)	助教	中佐 智幸	1,200,000
脳磁図を用いた運動・感覚障害の客観的評価法の開発	病院 (医)	助教	中西 一義	500,000
耐糖能異常および脂質代謝異常と死因一とくに悪性新生物死の関連の疫学研究	病院 (医)	助教	中西 修平	1,500,000
微小重力環境で培養したヒト頭蓋骨由来 MSC の神経分化能と機能評価	病院 (医)	助教	山口 智	500,000
miRNA による関節リウマチ滑膜細胞機能リプログラミングの誘導	病院 (医)	助教	山崎 聡士	800,000
消化管内視鏡画像解析による客観的指標の構築と診断支援システムへの応用	病院 (医)	助教	吉田 成人	1,000,000
Non-dipper 型高血圧の発症における時計遺伝子の役割	病院 (医)	特任助教	中島 歩	1,600,000
力覚呈示機能の搭載による内視鏡外科手術力の客観的評価システムの開発	病院 (医)	医科診療医	川口 孝二	1,600,000
紫外線によるアパタイトの高機能ナノバイオ界面制御法の開発	病院 (歯)	講師	阿部 泰彦	1,200,000
睡眠時・覚醒時ブラキシズムと心理社会的因子および TMD の共分散構造分析	病院 (歯)	講師	安部倉 仁	1,900,000
睡眠時無呼吸症候群における新しい口腔内装置の包括的臨床展開	病院 (歯)	講師	上田 宏	900,000
唾液腺腫瘍の生物学的態度に関わる因子の病理学的・分子生物学的解析	病院 (歯)	講師	小川 郁子	1,200,000
HBp17 / FGF19 蛋白を標的とした口腔癌の分子標的診断・治療法の開発研究	病院 (歯)	助教	新谷 智章	2,300,000
Wnt シグナルを標的とした生体由来成分を用いた直接覆髄材の開発	病院 (歯)	講師	藤井 理史	1,400,000
イルソグラジンマレイン酸による歯肉上皮細胞機能の分子制御メカニズムの解明	病院 (歯)	講師	藤田 剛	1,400,000

平成25年度文部科学省科学研究費(基金分)採択一覧

基盤研究 (C)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
多毛症を合併した先天性肉肉増殖症の病態解析	病院(歯)	助教	荒川 真	100,000
神経ペプチドの新規機能の解明と炎症性口腔粘膜疾患への治療応用	病院(歯)	助教	太田 耕司	1,200,000
F-spondinによる歯槽骨吸収抑制に関する検討	病院(歯)	助教	北川 雅恵	1,900,000
口腔癌の浸潤における細胞間相互作用の解明	病院(歯)	助教	島末 洋	1,600,000
歯科初診医療面接の会話分析に関する基礎学的研究	病院(歯)	助教	田中 良治	400,000
NK細胞活性化受容体リガンドをターゲットとした口腔癌に対する個別化治療の開発	病院(歯)	助教	谷 亮治	1,000,000
薬物徐放制御能を有するハイブリッド生体材料の開発	病院(歯)	助教	二宮 嘉昭	1,200,000
骨強度を指標とするインプラント即時荷重診断システムの新開発	病院(歯)	助教	日浅 恭	1,100,000
ヒト骨髄由来間葉系幹細胞を用いた安全・安心な細胞治療を行うための基盤整備研究	病院(歯)	助教	岡本 康正	1,100,000
臨床データ・プロセスに基づいた残存歯咬合支持能力の簡易診断システムの開発	病院(歯)	歯科診療医	水町 亘	1,100,000
ヨード状態を軸とした新生児期化学物質曝露による甲状腺ホルモン系かく乱の定量解析	原爆放射線医学研究所	准教授	藤本 成明	1,000,000
DNA 脱メチル化剤による翻訳効率向上が造血細胞の分化を促進するメカニズムの解明	原爆放射線医学研究所	准教授	松井 啓隆	1,200,000
メタボローム解析による悪性胸膜中皮腫細胞の低酸素応答機構の解明	原爆放射線医学研究所	准教授	宮田 義浩	1,400,000
Geminin タンパク質制御を介した造血幹細胞の活性制御機構の解析	原爆放射線医学研究所	准教授	安永 晋一郎	1,500,000
染色体転座形成における DNA 組換え修復関連タンパク質の関与	原爆放射線医学研究所	講師	孫 継英	900,000
microRNA 制御を応用した新しい食道癌化学放射線療法の開発	原爆放射線医学研究所	講師	樽原 淳	1,400,000
癌の治療標的としての Mnk-eIF4E 経路に関する研究	原爆放射線医学研究所	助教	上田 健	1,200,000
異なる放射線照射条件と多能性幹細胞を用いた次世代 DNA 損傷ストレス影響研究	原爆放射線医学研究所	助教	河合 秀彦	1,300,000
白血病モデルマウスを用いた放射線がんの分子機構解明と年齢依存性の解明	原爆放射線医学研究所	助教	笹谷 めぐみ	800,000
口腔がん細胞の DNA 損傷応答における HIF-DEC 経路の意義	原爆放射線医学研究所	助教	谷本 圭司	1,100,000
心血管疾患における ROCK 活性の役割: トランスレーショナル研究	原爆放射線医学研究所	助教	野間 玄督	1,300,000
SAGE 法による新たな消化器癌幹細胞特異的遺伝子の同定とその機能解析	原爆放射線医学研究所	助教	浜井 洋一	1,300,000
ALS における Optineurin の神経細胞毒性に関する分子メカニズムの解明	原爆放射線医学研究所	助教	森野 豊之	1,000,000

若手研究 (B)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
次世代シーケンサーを用いたHCVに対する3者併用療法中の耐性株の動態の解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任講師	Hayes Clair Nelson	1,500,000
ヒト肝細胞キメラマウスと次世代シーケンサーを用いた肝炎ウイルスゲノムの解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	阿部 弘美	1,500,000
黄砂による健康影響の東アジア地域における地理的差異の解明	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	鹿嶋 小緒里	1,900,000
破骨細胞分化成熟過程における小胞体膜タンパク質Lumanの機能解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	金本 聡自	1,600,000
細胞内局在特異的IKKβを介したネクロシスの制御と炎症と発がんの連関	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	土谷 佳弘	1,800,000
インスリン受容体基質のモノユビキチン化を介したインスリン活性調節機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	福嶋 俊明	1,600,000
ステロイド様物質GITRLを介した癌細胞によるNK細胞免疫回避機構の解明と制御	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	大平 真裕	1,400,000
構造生物学的アプローチによるウイルスタンパク質の自然免疫阻害機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	小田 康祐	1,700,000
霊長類の胸郭・前肢帯の骨格形態と立体配置: ヒト上科の運動適応の解明	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	加賀谷 美幸	800,000
In vivoパッチクランプ法による発達期シナプス刈り込みに関わる活動実態の解明	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	河村 吉信	1,300,000
うつ病における血中バイオマーカーの探索	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	瀬川 昌弘	1,300,000
肺動脈性肺高血圧症早期診断マーカーの同定	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	土肥 由裕	1,400,000
染色体工学を用いた精神疾患モデルマウスの統合的解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	野村 淳	1,600,000
個人の特性に応じたロボット支援手術トレーニング法の開発	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	藤原 稔	1,900,000
新たなPTSD治療薬の開発基盤の構築	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	藤田 洋輔	1,600,000
精神疾患に関わる脳特異的ノンコーディングRNAの機能解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	古米 亮平	1,800,000
ダイナミック心臓CT画像を用いた冠動脈の血流予備量比の推定	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	榎垣 徹	1,400,000
骨肉腫に対するテロメラーゼ阻害剤を用いた新たな薬物療法	大学院医歯薬保健学研究院(医)	特任助教	藤森 淳	500,000
食細胞シグナル伝達異常症由来IPS細胞の樹立と骨リモデリングの解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	研究員	津村 弥来	2,100,000
変形性頸関節症の軟骨破壊に対するエストロゲンの作用機序の解明と診断法への応用	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	麻川 由起	1,900,000
新規分子が制御する血液凝固、血管修復メカニズムの解明研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	浅野 智志	1,800,000
口腔癌における痛幹細胞と腫瘍間質内間葉系幹細胞の細胞間ネットワークの機能解析	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	石田 康隆	900,000
TRAF6をターゲットとした新規治療薬の開発	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	犬伏 俊博	1,900,000
Valsartanが代謝性内毒素誘導性インスリン抵抗性を改善する分子機序の解明	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	岩下 未咲	1,500,000
関節リウマチ発症における歯周病原細菌由来シトルリン化酵素PADの影響	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	應原 一久	2,000,000
小児蝕歯の新たな予防法開発へ向けたリスク増悪因子の解明	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	大原 紫	1,600,000
黄色ブドウ球菌新規転写制御因子SptAによる病原性因子制御機構に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	加藤 文紀	1,600,000
レーザーによる歯の移動時の歯周組織誘導能の探索と臨床応用	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	國松 亮	1,500,000
成体由来細胞を用いてのエナメル芽細胞樹立と歯再生法の確立	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	鈴木 茂樹	700,000
変形性頸関節症におけるHIF-1とBMP-2の役割	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	白倉 麻耶	1,800,000
舌痛症を画像診断する脳機能画像を用いて	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	土井 充	600,000
E-カドヘリンプロセス分子のNakedDNAを用いた口腔癌遺伝子治療法の開発研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	浜名 智昭	1,300,000
bFGF・poly(P)・IP-CHA複合体を用いた新しい骨増生材料の創製	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	林 和彦	1,900,000
PRIPを介したオートファジーによる感染細菌排除機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	原田 佳枝	1,600,000
ブドウ球菌熱傷極皮膚症候群由来黄色ブドウ球菌の病原性発現機序に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	久恒 順三	1,600,000
骨代謝改善を担う破骨細胞の機能制御に関与するエストロゲンとその標的因子の解明	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	樋山 伸二	1,400,000
アメロブラスチンによる歯根象牙質の形成促進機構の解明と歯根吸収治療への応用	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	廣瀬 尚人	1,700,000
卵母細胞処理口腔扁平上皮癌細胞のエピジェネティックなプロテオミクスの検討	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	山井 康人	1,500,000
miRNAを標的とした歯周炎症誘導性インスリン抵抗性の制御を目指す基礎研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	山下 明子	1,000,000
局所リン代謝調節に基づく歯の形成機構の解明-エピゲノム解析からのアプローチ-	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	吉岡 広陽	1,600,000
LDL受容体ファミリーを介したF-spondinの硬組織破壊調節機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	特任助教	岡 広子	900,000
低酸素環境における腫瘍血管内皮細胞の異常性獲得機序に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	特任助教	北山 和子	1,100,000

平成25年度文部科学省科学研究費(基金分)採択一覧

若手研究 (B)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
髄間葉系幹細胞による歯肉上皮細胞増殖抑制のメカニズム	大学院歯歯薬保健学研究院(歯)	特任助教	永原 隆吉	1,600,000
美白薬の創薬研究を目指した未利用植物資源からの新規機能性物質の探索	大学院歯歯薬保健学研究院(薬)	講師	杉本 幸子	2,200,000
慢性疼痛の治療標的としての脊髄アストロサイト・gap junctionの機能解析	大学院歯歯薬保健学研究院(薬)	講師	森岡 徳光	1,900,000
肝細胞3次元培養を用いた医薬品の代謝的活性化による毒性予測評価	大学院歯歯薬保健学研究院(薬)	助教	佐能 正剛	2,200,000
線維芽細胞増殖因子(FGF)の新規薬理作用としての抗うつ効果発現機序の解析	大学院歯歯薬保健学研究院(薬)	助教	中島 一恵	1,000,000
NSAIDsの服用による食物アレルギーの吸収増加機構の解明	大学院歯歯薬保健学研究院(薬)	助教	横大路 智治	1,100,000
終末期がん患者の「家族への負担感」の概念化と尺度開発	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	講師	大塚 美樹	1,100,000
発達障害者の「運動の不器用さ」解明のための定量的評価法の開発	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	講師	車谷 洋	1,400,000
ヒトの運動時の心拍数調節機序の再検証-心電図PP間隔変動周波数解析を用いて-	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	講師	高橋 真	1,000,000
心疾患に伴う骨格筋の弱体化予防に対する高気圧・高濃度酸素の効果検証と作用機序の解明	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	講師	藤田 直人	1,200,000
知覚-運動ループの不一致が痛覚および変化検出機構に及ぼす影響	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	助教	大鶴 直史	700,000
新任保健師の職業アイデンティティ確立に向けたeラーニング教育システムの開発	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	助教	金藤 亜希子	500,000
移植コーディネーターの質向上を目指す養成教育・継続教育プログラムの開発	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	助教	新宮 美徳	800,000
特別養護老人ホームにおける終末期ケアの質向上のための教育プログラムの開発	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	助教	那須 佳津美	1,000,000
全身振動刺激を併用した体幹深部筋強化トレーニング法の構築	大学院歯歯薬保健学研究院(保)	助教	前田 慶明	1,700,000
ヒト末梢血CD133陽性細胞移植を用いた新たな勃起不全治療アプローチの開発	病院(医)	助教	井上 省吾	1,400,000
I型肺上皮由来の新規特発性肺線維症バイオマーカー RAGEの開発と創薬の試み	病院(医)	助教	岩本 博志	1,300,000
ヒト幹細胞の新生児医療応用への基礎研究	病院(医)	助教	大野 令央義	1,300,000
ATRX/DRXX遺伝子変異による神経芽腫のテロメア伸長機序と臨床応用	病院(医)	助教	鬼武 美幸	1,700,000
骨髄由来幹細胞の軟骨損傷治療過程への関与に関する研究	病院(医)	助教	亀井 豪器	1,600,000
うつ病における思考速度低下の脳磁図による検討	病院(医)	助教	志々田 一宏	500,000
乳癌臨床検体を用いたHER2標的療法効果予測法の開発	病院(医)	助教	重松 英朗	1,500,000
放射線誘発性末梢神経障害に対する新規治療開発	病院(医)	助教	四宮 陸雄	1,400,000
肺線維症において骨髄に保存される傷害記憶システムの解明	病院(医)	助教	中島 拓	1,800,000
ガドキセト酸ナトリウム造影fMRIにおける抗癌剤の腫瘍描出能への検討	病院(医)	助教	中村 優子	500,000
ヒト膀胱に対する抗癌剤感受性制御腫瘍溶解性組換えワクシニアウイルスの開発	病院(医)	助教	橋本 泰司	2,200,000
一塩基多型がI型リアンジン受容体の機能に与える影響についての検討	病院(医)	助教	原木 俊明	900,000
有限要素法モデルによる前胸部ケロイドの生体力学解析	病院(医)	助教	宮本 純平	1,000,000
慢性尋麻疹の病態における組織因子の発現機序の解析	病院(医)	助教	森崎 聡	1,600,000
各種腎臓疾患における無血清培地を用いた間葉系幹細胞の治療効果:臨床応用を目指して	病院(医)	医科診療医	上野 敏憲	1,800,000
骨髄間葉系幹細胞の大腸癌増殖促進機構におけるメタロチオネインの重要性に関する研究	病院(医)	医科診療医	品川 慶	1,900,000
大腸上皮特異的複合遺伝子変異マウスモデルを用いた大腸癌転移関連遺伝子の探索	病院(医)	医科診療医	下村 学	1,600,000
機能的MRIを用いた膝前十字靭帯損傷患者の大脳固有感覚ネットワーク再構築の研究	病院(医)	理学療法士	平田 和彦	600,000
低線量多時相 Dual Energy CT による尿路系腫瘍検出能の改善	病院(医)	医科診療医	本田 有紀子	1,000,000
表面プラズモン共鳴による皮膚悪性腫瘍の機能的診断法の開発	病院(医)	医科診療医	柳瀬 哲至	1,400,000
ポリコム遺伝子発現制御に着目した歯周組織構成細胞の多方向制御メカニズムの解明	病院(歯)	助教	岩田 倫幸	1,500,000
ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に関与する遺伝子の機能解析	病院(歯)	助教	中川 貴之	1,700,000
Toll-like receptorを介した難治性口腔粘膜疾患発症機構の解明	病院(歯)	助教	西 裕美	700,000
脳由来神経栄養因子による歯周組織再生における歯肉上皮侵入阻害メカニズムの解明	病院(歯)	助教	松田 真司	1,700,000
尿素を用いた光感受性試薬の開発-エルビウムヤグレーザー併用による歯周治療の確立	病院(歯)	助教	峯岡 茜	1,200,000
咬合刺激が歯周組織の血管動態および歯根吸収発現に及ぼす影響の解明	病院(歯)	助教	本川 雅英	1,500,000
骨質イノベーションを達成するポリリン酸のバイオアクティブ効果	病院(歯)	助教	森田 晃司	1,300,000
無血清培養系を用いた口腔扁平上皮癌におけるSP細胞の分子・生物学的特性解析	病院(歯)	歯科診療医	伊藤 晃	2,100,000
口腔扁平上皮癌の高度悪性化に関与するサイトカイン誘導性EMTの解析	病院(歯)	歯科診療医	奥井 岳	1,300,000
多孔質セラミックスにおける骨形成メカニズムの解明と臨床応用への基礎的研究	病院(歯)	歯科診療医	多田 美里	1,400,000
在宅歯科診療に適した自浄作用を有する高耐久性ティッシュコンディショナーの開発	病院(歯)	歯科診療医	柄 博紀	1,200,000
無血清胚様体培養系を用いた顎顔面遺伝性疾患由来ヒトiPS細胞の分化能解析	病院(歯)	歯科診療医	鍋島 巧	1,600,000
口腔粘膜のウイルス認識機構の解明と口腔粘膜炎症性疾患における意義	病院(歯)	歯科診療医	福井 暁子	1,400,000
二酸化塩素含有歯洗剤の新開発	病院(歯)	歯科診療医	堀 智治	1,400,000
ジグリングによる歯根吸収発現機序の解明とGCFを用いた歯根吸収予測法の探索	病院(歯)	歯科診療医	松田 弥生	2,000,000
線形な変化係数の信頼区間の精密化と共分散構造分析への応用に関する研究	原爆放射線医学研究所	准教授	佐藤 健一	700,000
放射線誘発がんにおけるマイクロRNAの包括的理解	原爆放射線医学研究所	助教	飯塚 大輔	1,000,000
白血病の病態制御におけるGemininの分子機能の解析	原爆放射線医学研究所	助教	大野 芳典	1,600,000
DNA損傷修復異常による遺伝性小頭症発症の分子機構	原爆放射線医学研究所	助教	宮本 達雄	700,000
筋萎縮性側索硬化症の発症メカニズムの解明-オプテニューリンを中心とした新規機序-	原爆放射線医学研究所	研究員	倉持 真人	600,000
HBVゲノタイプA感染に伴う病態解明に向けた基礎研究	自然科学研究支援開発センター	助教	柘植 雅貴	500,000
神経芽細胞腫予後良好3因子の分化機序の解明と治療法開発	自然科学研究支援開発センター	研究員	山岡 絵美	1,700,000

平成25年度文部科学省科学研究費(基金分)採択一覧

挑戦的萌芽研究

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
INTS6による新規脂肪分化調節機構の解明と肥満治療への展開	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	浅野 知一郎	1,200,000
小胞体ストレスセンサーによる細胞間情報伝達機構の解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	今泉 和則	1,600,000
肝臓に対する分子標的薬を併用したunlicensed NK細胞療法の開発	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	大段 秀樹	1,800,000
脱細胞化組織と末梢血単核球およびマイクロRNAを用いた関節軟骨再生	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	越智 光夫	1,300,000
抗KL-6抗体は分子標的薬の作用を増強しうるか	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	河野 修興	700,000
ハイコンテント顕微鏡イメージングを用いた新規神経変性疾患治療薬の自動検索法の開発	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	酒井 規雄	1,200,000
成熟miRNA上のSNPと臓器移植症例を利用した臓器特異的miRNA分泌の解析	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	茶山 一彰	2,900,000
ヒ素化合物の形態別抽出による新規系統的GC/MS分析法の確立	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	長尾 正崇	1,000,000
表面プラズモン共鳴による血管肉腫細胞の機能的診断法の開発	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	秀 道広	1,300,000
ncRNAをコードする超保存領域T-UCRを標的とする消化管癌の診断・治療展開	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	安井 弥	1,400,000
クエン酸回路と遺伝子発現系のクロストークによる炎症と発癌の制御機構	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	鎌田 英明	1,200,000
吸収性胆管ステントによる胆管狭窄予防	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	田代 裕尊	1,000,000
小胞体ストレスセンサータンパク質による骨格系細胞分化制御機構の解明	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	齋藤 敦	900,000
無血清エンブリオイドボディ培養法によるマウス・ヒトiPS細胞からの顎骨・歯胚誘導	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	岡本 哲治	1,200,000
歯周組織再生のためのタンパク質性足場材料の設計	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	加藤 功一	1,100,000
腫瘍原因菌が生成する新規タンパク複合体デグランドソームの環境適応に果たす役割	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	香西 克之	800,000
ペリオスチンに着目した歯周病分子標的予防法に関する基礎的研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	栗原 英見	1,200,000
味覚誘発情動の神経回路基盤の解明と心の科学への展開	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	杉田 誠	900,000
Scleraxisの発現を指標とした歯根膜のメカニカルストレス応答の分子機構	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	宿南 知佐	2,000,000
リボソーム化ラクトフェリンを用いた新規慢性関節リウマチ予防法の開発	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	高田 隆	1,200,000
有床義歯のウェアラブルセンサー化による健康管理システム	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	村山 長	600,000
無血清培地での間葉系幹細胞の分離、増殖、分化を促進する官能基配合培養皿	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	名誉教授	加藤 幸夫	1,400,000
オンチップ・セル・ソーティング法による間葉系幹細胞の予見的表面マーカーの同定	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	助教	錦織 良	1,900,000
トランスポーターの低温忍容性解析と汎トランスポーター阻害剤の探索開発	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	教授	高野 幹久	900,000
体液循環miRNA輸送機構を用いたがん特異的新規DDSの開発	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	教授	田原 栄俊	1,500,000
創薬研究を指向したバクテリア2成分情報伝達系に関する動的定量解析手法の樹立	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	准教授	木下 英司	800,000
チューブリンは環境化学物質の新規毒性標的となりうるか?	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	准教授	古武 弥一郎	1,600,000
人工ヌクレアーゼを用いた早老症iPS細胞の遺伝子修正と治療への応用	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	准教授	嶋本 顕	1,400,000
睡眠・覚醒リズムと身体機能・能力の関係を解明し高齢者を健康的な日常活動へと導く研究	大学院医歯薬保健学研究院(保)	教授	新小田 幸一	500,000
筋血流量を用いた運動イメージの可視化とBiofeedbackによる運動機能の改善	大学院医歯薬保健学研究院(保)	教授	松川 寛二	1,200,000
看護基礎教育レベルの放射線看護教育方法の検討	大学院医歯薬保健学研究院(保)	教授	宮腰 由紀子	1,600,000
過疎高齢化が進む地域での住民参加型ポピュレーション・ヘルス・マネジメントの展開	大学院医歯薬保健学研究院(保)	教授	森山 美知子	1,100,000
ニューロサイエンスに立脚した対麻痺歩行支援ロボットの開発	大学院医歯薬保健学研究院(保)	教授	弓削 類	1,000,000
乳児のシグナルに喚起される感情モデルに基づく体験型親準備教育プログラム構築の試み	大学院医歯薬保健学研究院(保)	講師	竹中 和子	500,000
Bach1により制御される関節軟骨保護機構の解明とZFPによる新規治療法の開発	病院(医)	講師	味八木 茂	1,800,000
慢性皮膚粘膜カンジダ症の疾患モデルマウスの作成と治療法の確立	病院(医)	助教	岡田 賢	1,500,000
産休・育休中の女性皮膚科医による在宅・僻地皮膚診療支援	病院(医)	助教	横林 賢一	700,000
口腔癌転移を制御する細胞接着因子を標的にした核酸医薬のデリバリーシステムの開発	病院(歯)	講師	林堂 安貴	900,000
浸潤突起を選択的に採取できる新技術レーザープロテオミクスによる肺癌浸潤機構の解明	原爆放射線医学研究所	教授	岡田 守人	1,400,000
放射線被ばく尿中バイオマーカーによる線量評価法の開発	原爆放射線医学研究所	教授	神谷 研二	1,600,000
Gemininによる心筋細胞を維持する分子機構の解析	原爆放射線医学研究所	教授	瀧原 義宏	2,000,000
ゲノム損傷部位輸送機構の解明	原爆放射線医学研究所	教授	田代 聡	1,500,000
iPS細胞バンクを利用した緊急被ばく対応システムの構築	原爆放射線医学研究所	教授	東 幸仁	900,000
酸化リノ酸経路活性化による発がん機構の解析	原爆放射線医学研究所	教授	本田 浩章	1,500,000
革新的両方向性遺伝学的アプローチによる重度小頭症の病態解明	原爆放射線医学研究所	教授	松浦 伸也	900,000
ヒ素感受性関連遺伝子群の探索と毒性発現・生体防御機構の解明	原爆放射線医学研究所	准教授	信國 好俊	1,100,000
1細胞広範シーケンス技術に基づく、放射線の突然変異誘発率の計測	原爆放射線医学研究所	助教	金井 昭教	1,100,000
地理情報システムを用いた広島原爆入浴被曝者の健康影響評価	原爆放射線医学研究所	助教	佐藤 裕哉	1,400,000
細胞周期特異的局在性を利用した卵子特異的リプログラミング因子の網羅的探索	自然科学研究支援開発センター	教授	外丸 祐介	1,100,000
小児期の放射線、化学療法がもたらすゲノム異常と遺伝的影響に関する検討	自然科学研究支援開発センター	教授	檜山 英三	2,900,000

平成25年度文部科学省科学研究費(一部基金分)採択一覧

(注) 所属欄の (医) は医学分野、(歯) は歯学分野、(薬) は薬学分野、(保) は保健学分野を示す。

基盤研究 (B)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	補助金	基金	配分額合計(円) (直接経費)
治療耐性・癌幹細胞克服に向けた消化管癌の新規診断・治療標的の包括的同定と展開	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	安井 弥	3,500,000	1,300,000	4,800,000
人工スクレアーゼによる食細胞異常症由来ヒト iPS 細胞の遺伝子修復に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	小林 正夫	2,100,000	3,200,000	5,300,000
難治性神経疾患の治療に資する膜輸送・リソソーム分解調節薬物の検索と開発	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	酒井 規雄	2,200,000	3,500,000	5,700,000
情動制御の脳内機構とその障害の修復機序に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	教授	山脇 成人	2,500,000	900,000	3,400,000
口腔癌幹細胞ニッチにおけるサイトカインネットワークの解明とその診断・治療への応用	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	岡本 哲治	2,700,000	900,000	3,600,000
生体類似組織構築のための人工細胞外マトリックスの創製	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	加藤 功一	3,400,000	5,000,000	8,400,000
骨髄間葉系幹細胞からセメント芽細胞への分化誘導と象牙質面へのセメント質形成誘導	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	栗原 英見	3,100,000	1,100,000	4,200,000
リポソーム化ラクトフェリンを用いた口腔癌の増殖ならびに骨浸潤の制御	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	高田 隆	2,700,000	4,100,000	6,800,000
水素量低減 DLC を応用したインプラント周囲骨リモデリングの制御	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	教授	二川 浩樹	2,400,000	700,000	3,100,000
細胞増殖・分化を制御する化学規定化培養基の開発	大学院医歯薬保健学研究院 (歯)	助教	平田 伊佐雄	6,700,000	5,000,000	11,700,000
網羅的リン酸化タンパク質解析のための3次元電気泳動イメージング技術の構築	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	木下 英司	1,500,000	2,400,000	3,900,000
熱帯地域特異的神経変性疾患の現地調査と病因に基づく新規モデル動物作製	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	准教授	古武 弥一郎	3,100,000	1,400,000	4,500,000
小児肝がん国際共同臨床試験に向けた新たな治療戦略のための分子基盤の構築	病院 (医)	講師	小倉 薫	2,600,000	4,000,000	6,600,000
遺伝子不安定性の異なるサブクラス分類に有用な新規マウス大腸癌疾患モデルの確立	病院 (医)	講師	檜井 孝夫	1,600,000	2,400,000	4,000,000
運動器損傷に対する血管新生および組織特異的マイクロ RNA による新規治療開発	病院 (医)	助教	亀井 直輔	2,200,000	3,300,000	5,500,000
E-カドヘリンのプロセッシング抑制による口腔癌の浸潤・転移阻止療法に関する研究	病院 (歯)	講師	林堂 安貴	2,800,000	1,000,000	3,800,000
口腔癌の EMT を介した局所浸潤機構の解明	病院 (歯)	講師	東川 晃一郎	1,800,000	900,000	2,700,000
肺胞上皮癌における浸潤性肺腺癌への悪性化進展メカニズムの解明	原爆放射線医学研究所	教授	岡田 守人	3,000,000	1,300,000	4,300,000
低線量・低線量率放射線発がん高感受性モデルマウスの開発と発がんリスク評価	原爆放射線医学研究所	教授	神谷 研二	2,400,000	3,600,000	6,000,000
放射線感受性の個人差を規定する遺伝子の探索と同定	原爆放射線医学研究所	教授	松浦 伸也	2,300,000	900,000	3,200,000
ホウ素中性子捕捉療法のための加速器ターゲットシステムと中性子線量評価法の開発	原爆放射線医学研究所	名誉教授	星 正治	2,700,000	1,100,000	3,800,000

若手研究 (A)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	補助金	基金	配分額合計(円) (直接経費)
小胞体を起点とする骨軟骨代謝の制御と破綻	大学院医歯薬保健学研究院 (医)	助教	齋藤 敦	2,900,000	700,000	3,600,000
ATR の新規基質の網羅的同定及び機能解析	大学院医歯薬保健学研究院 (薬)	特任助教	塩谷 文章	3,200,000	3,800,000	7,000,000
新生児疼痛管理の実践を牽引するリーダー育成のための教育プログラムの開発	大学院医歯薬保健学研究院 (保)	講師	小澤 未緒	400,000	1,200,000	1,600,000
変形性関節症における新規関節内コミュニケーション因子としての分泌マイクロ RNA	病院 (医)	講師	味八木 茂	5,300,000	1,500,000	6,800,000
慢性皮膚粘膜炎の新規責任遺伝子の同定と STAT1 異常に伴う分子病態の解析	病院 (医)	助教	岡田 賢	1,300,000	2,100,000	3,400,000

平成25年度文部科学省科学研究費(奨励費分)採択一覧

(注) 所属欄の(医)は医学分野、(歯)は歯学分野、(薬)は薬学分野、(保)は保健学分野を示す。

特別研究員奨励費

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	配分額(円) (直接経費)
N-カドヘリンを標的とした口腔癌の新規治療法開発に関する研究	医歯薬保健学研究院 (歯)	外国人特別研究員	NGUYEN, P. T.	600,000
光学活性シロキシアレンの合成法の開発と合成反応への展開	医歯薬保健学研究科 薬科学専攻	博士課程後期2年	近藤 泰博	900,000
Ameloblastin の痛抑制遺伝子としての働き	医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻	博士課程3年	安藤 俊範	900,000
アストロサイトを標的とした抗うつ薬の新規薬理作用に関する研究	医歯薬保健学研究科 薬科学専攻	博士課程後期2年	梶谷 直人	900,000
小胞体ストレス応答による生理機能制御	医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻	博士課程2年	浅田 梨絵	1,200,000
シナプス、セロトニン異常と自閉症様行動との関連解析	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 医学専門プログラム	博士課程2年	福本 景太	900,000
スキルス胃痛微小環境に対する miR-143 の作用	医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻	博士課程3年	内藤 寛	1,000,000
うつ病の再発をもたらす脆弱性の改善を目的とした認知神経科学的介入技法の開発	医歯薬保健学研究院 (医)	ポスドク	山本 哲也	1,300,000
セントラルコマンドによる骨格筋血流量調節—中枢神経から骨格筋血管まで	医歯薬保健学研究科 保健学専攻	博士課程後期2年	石井 圭	1,000,000
老化細胞由来エクソソームの機能解析	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 薬学専門プログラム	博士課程1年	中村 亜由美	1,000,000

平成25年度厚生労働省科学研究費補助金採択一覧

(注) 所属欄の (医) は医学分野、(歯) は歯学分野、(薬) は薬学分野、(保) は保健学分野を示す。

厚生科学基盤研究分野

事業名	研究課題名	所属	職名	研究者名	代表・分担	配分額(円) (直接経費)	備考
再生医療実用化研究事業	関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復-多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	越智 光夫	分担	4,000,000	

疾病・障害対策研究分野

事業名	研究課題名	所属	職名	研究者名	代表・分担	配分額(円) (直接経費)	備考
第3次対がん総合戦略研究事業	がん治療のための革新的新技術の開発及び臨床応用に関する総合的な研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	永田 靖	分担	1,800,000	
第3次対がん総合戦略研究事業	放射線障害と宿主要因からみた発がんの分子基盤とその臨床応用に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	安井 弥	代表	11,231,000	学内分担者 1,200,000 学外分担者 6,500,000 分も含む
第3次対がん総合戦略研究事業	ゲノム・遺伝子解析情報に基づく、臨床応用可能な固形がんの予後予測法の開発と、免疫遺伝子治療に資する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	大上 直秀	分担	2,400,000	
第3次対がん総合戦略研究事業	がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB) の構築と運用	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	権丈 雅浩	分担	100,000	
第3次対がん総合戦略研究事業	高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	権丈 雅浩	分担	100,000	
第3次対がん総合戦略研究事業	QOL向上のための、主に精神、心理、社会、スピリチュアルな側面からの患者・家族支援プログラムに関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(保)	教授	岡村 仁	分担	2,000,000	
第3次対がん総合戦略研究事業	放射線障害と宿主要因からみた発がんの分子基盤とその臨床応用に関する研究	原爆放射線医学研究所	教授	神谷 研二	分担	1,200,000	
がん臨床研究事業	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクシンの第Ⅲ相臨床研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	栗栖 薫	分担	500,000	
がん臨床研究事業	小児がん経験者の晩期合併症及び二次がんに関する長期フォローアップシステムの整備に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	小林 正夫	分担	350,000	
がん臨床研究事業	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	下瀬 省二	分担	240,000	
がん臨床研究事業	頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	講師	村上 祐司	分担	400,000	
がん臨床研究事業	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクシンの第Ⅲ相臨床研究	病院(医)	教授	杉山 一彦	分担	500,000	
がん臨床研究事業	切除可能悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療法の確立に関する研究	原爆放射線医学研究所	教授	岡田 守人	分担	800,000	
がん臨床研究事業	希少小児がんである肝芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験に関する研究	自然科学研究支援開発センター	教授	檜山 英三	代表	20,231,000	学外分担者 4,000,000 分も含む
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	保健指導の導入による脳卒中・心筋梗塞の再発予防効果に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	松本 昌泰	分担	600,000	
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	保健指導の導入による脳卒中・心筋梗塞の再発予防効果に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(保)	教授	森山 美知子	代表	6,385,000	学内分担者 600,000 学外分担者 2,600,000 分も含む
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究(JDCS)	病院(医)	助教	中西 修平	分担	500,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	びまん性肺疾患に関する調査研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	河野 修典	分担	500,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	小林 正夫	分担	4,000,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	血液免疫系細胞分化障害による疾患の診断と治療に関する調査研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	小林 正夫	分担	3,500,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	原発性免疫不全症候群に関する調査研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	小林 正夫	分担	2,000,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	難治性血管腫・血管奇形についての調査研究 患者実態調査および治療法の研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	田中 純子	分担	500,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	重症好酸球性副鼻腔炎の診断基準作成と治療法確立に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	平川 勝洋	分担	400,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	リンパ脈管筋腫症に対するシロリムスの安全性確立のための医師主導試験	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	服部 登	分担	1,600,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究-試薬からの希少疾病治療薬開発の試み	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	但馬 剛	分担	1,500,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした国際的研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	寄附講座教授	安永 裕司	分担	1,080,000	

平成25年度厚生労働省科学研究費補助金採択一覧

疾病・障害対策研究分野

事業名	研究課題名	所属	職名	研究者名	代表・分担	配分額(円) (直接経費)	備考
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	前庭機能異常に関する調査研究	病院(医)	講師	工田 昌也	分担	800,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	遺伝性不整脈疾患の遺伝子基盤に基づいた病態解明と診断・治療法の開発に関する研究	病院(医)	助教	中野 由紀子	分担	1,500,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	神経変性疾患に関する調査研究	原爆放射線医科学研究所	教授	川上 秀史	分担	3,400,000	
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)	先天性異常の疾患群の診療指針と治療法開発をめぐった情報・検体共有のフレームワークの確立	原爆放射線医科学研究所	教授	松浦 伸也	分担	2,000,000	
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)	生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	秀 道広	分担	500,000	
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)	アトピー性皮膚炎の発症・症状の制御および治療法の確立普及	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	秀 道広	分担	1,000,000	
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)	アレルギー疾患の全年齢にわたる継続的疫学調査体制の確立とそれによるアレルギーマーチの発症・悪化要因のコホート分析に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	秀 道広	分担	1,200,000	
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)	アトピー性皮膚炎発症機序の解明と皮膚バリアケアによる予防法の開発に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(歯)	教授	菅井 基行	分担	2,000,000	
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 移植医療研究分野)	移植細胞源を異にする非血縁造血細胞移植の組織適合性に基づく成績向上と移植選択アルゴリズムの確立に関する研究	原爆放射線医科学研究所	教授	一戸 辰夫	分担	500,000	
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 移植医療研究分野)	HLA不適合血縁者間移植の安全性および有効性向上のための包括的研究	原爆放射線医科学研究所	教授	一戸 辰夫	分担	500,000	
慢性的痛み対策研究事業	慢性疼痛の多面的評価システムの開発と客観的評価法の確立に対する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	越智 光夫	分担	500,000	
認知症対策総合研究事業	BPSDの症状評価法および治療法の開発と脳内基盤解明を目指した総合的研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	鳥嶋子田 彰	分担	1,000,000	
障害者対策総合研究事業	臨床評価指標を踏まえた睡眠障害の治療ガイドライン作成及び難治性の睡眠障害の治療法開発に関する研究	病院(医)	講師	山下 英尚	分担	1,500,000	
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	認知行動療法等の精神療法の科学的エビデンスに基づいた標準治療の開発と普及に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	岡本 泰昌	分担	1,000,000	
エイズ対策研究事業	血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	田中 純子	分担	1,000,000	
エイズ対策研究事業	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	病院(医)	准教授	藤井 輝久	分担	6,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	大段 秀樹	分担	3,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	大段 秀樹	代表	31,000,000	学内分担者 6,000,000 学外分担者 6,000,000分も含む
肝炎等克服緊急対策研究事業	肝移植後C型肝炎に対する治療法の標準化を目指した臨床的ならびに基礎的研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	大段 秀樹	分担	1,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	茶山 一彰	代表	51,300,000	学内分担者 6,000,000 学外分担者 17,500,000 分も含む
肝炎等克服緊急対策研究事業	急性感染も含めた肝炎ウイルス感染状況・長期経過と治療導入対策に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	田中 純子	代表	32,000,000	学外分担者 8,000,000分も含む
肝炎等克服緊急対策研究事業	多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	田中 純子	分担	1,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	小児におけるB型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	田中 純子	分担	700,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	大学院医歯薬保健学研究院(医)	助教	田中 友加	分担	2,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	教授	田原 栄俊	分担	1,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	肝炎に関する全国規模のデータベースを用いた肝炎治療の評価及び肝炎医療の水準の向上に資する研究	病院(医)	講師	川上 由育	分担	2,000,000	

平成25年度厚生労働省科学研究費補助金採択一覧

疾病・障害対策研究分野

事業名	研究課題名	所属	職名	研究者名	代表・分担	配分額(円) (直接経費)	備考
肝炎等克服緊急対策研究事業	科学的根拠に基づくウイルス性肝炎診療ガイドラインの構築に関する研究	病院(医)	講師	川上 由育	分担	2,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究	病院(医)	助教	今村 道雄	分担	3,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	病院(医)	助教	今村 道雄	分担	2,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	次世代シーケンス技術を駆使したウイルスゲノム解析によるC型肝炎の病態解明と臨床応用	病院(医)	助教	今村 道雄	分担	2,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	B型肝炎の核酸アナログ薬治療におけるdrug freeを目指したインターフェロン治療の有用性に関する研究	自然科学研究支援開発センター	助教	柘植 雅貴	分担	2,000,000	
肝炎等克服緊急対策研究事業	B型肝炎ウイルスe抗体陽性無症候性キャリアの長期予後に関する検討	自然科学研究支援開発センター	助教	柘植 雅貴	分担	1,000,000	
B型肝炎創薬実用化等研究事業	革新的な動物モデルや培養技術の開発を通じたHBV排除への創薬研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	坂口 剛正	分担	5,000,000	
B型肝炎創薬実用化等研究事業	革新的な動物モデルや培養技術の開発を通じたHBV排除への創薬研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	茶山 一彰	代表	130,770,000	学内分担者 20,000,000 学外分担者 28,000,000 分も含む
B型肝炎創薬実用化等研究事業	革新的な動物モデルや培養技術の開発を通じたHBV排除への創薬研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	阿部 弘美	分担	5,000,000	
B型肝炎創薬実用化等研究事業	革新的な動物モデルや培養技術の開発を通じたHBV排除への創薬研究	大学院医歯薬保健学研究院(薬)	教授	田原 栄俊	分担	5,000,000	
B型肝炎創薬実用化等研究事業	HBV cccDNAの制御と排除を目指す新規免疫治療薬の開発	病院(医)	助教	今村 道雄	分担	3,000,000	
B型肝炎創薬実用化等研究事業	B型肝炎の新規治療薬を開発するための宿主の自然免疫系の解析に関する研究	自然科学研究支援開発センター	助教	柘植 雅貴	分担	15,800,000	

健康安全確保総合研究分野

事業名	研究課題名	所属	職名	研究者名	代表・分担	配分額(円) (直接経費)	備考
地域医療基盤開発推進研究事業	救急医療体制の推進に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	谷川 攻一	分担	120,000	
地域医療基盤開発推進研究事業	被災地の再生を考慮した住宅医療の構築に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	寄附講座 講師	服部 文子	分担	1,000,000	
地域医療基盤開発推進研究事業	スマートフォンを用いた安全な外来化学療法実施に関する研究	原爆放射線医学研究所	講師	大島 久美	代表	2,217,000	学内外分担者には、 研究費配分せず
医薬品・医療機器等レギュトリーサイエンス総合研究事業	献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	田中 純子	分担	2,700,000	
医薬品・医療機器等レギュトリーサイエンス総合研究事業	薬剤性肺障害に関する包括的研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	准教授	服部 登	分担	300,000	

健康長寿社会実現のためのライフ・イノベーションプロジェクト

事業名	研究課題名	所属	職名	研究者名	代表・分担	配分額(円) (直接経費)	備考
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業(肝炎関係研究分野)	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究	大学院医歯薬保健学研究院(医)	教授	田中 純子	分担	500,000	

平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況・
奨学寄附金受入状況・寄贈図書一覧

○平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況

外部資金の名称	受入状況	
	件数	受入金額(千円)
受託研究	48件	260,686
共同研究	31件	62,420
計	79件	323,106

医歯薬保健学研究院、原爆放射線医科学研究所、病院の平成25年4月1日から平成25年9月30日までの受入状況を示す。
(千円未満四捨五入)

○平成25年度奨学寄附金受入状況

受入状況	
件数	受入金額(千円)
684件	469,490

医歯薬保健学研究院、原爆放射線医科学研究所、病院の平成25年4月1日から平成25年9月30日までの受入状況を示す。
(千円未満四捨五入)

○寄贈図書一覧

寄贈者		書名	著者	出版社・発行年月
所属	氏名			
医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 医学分野 心臓血管生理医学	吉栖 正生	新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案	一般社団法人 日本尊厳死協会	中日新聞社 2013年3月

編集後記／表紙写真説明

編集後記

平成25年9月1日午後、新診療棟の開院記念式典が行われました。大学病院に勤務する医療系専門職員だけでなく、霞キャンパスに在籍する多くの職員や学生にとっても記念すべき出来事であろうと思います。記念式典の数日前に担当者から「霞地区教職員の診療棟内の見学は控えていただきたい」というようなメールが来たのには驚きました。式典参加希望者が予想を大幅に上回ったため、移動の際の事故を懸念してということであり、新診療棟への期待の大きさがうかがえました。式典は前日までの雨のおかげで比較的涼しい中おこなわれ、浅原学長、茶山病院長らのテープカットに始まり、多くの絵画、書、オルゴールなどの寄贈品の除幕式が滞りなく行われました。正面玄関に飾られた母娘の絵など、きっと患者さんの気持ちを和らげてくれるでしょう。新診療棟内の見学が行われた後、何台ものバスでホテル会場に移動しました。そこで黒川清先生（政策研究大学院大学）のパワー溢れる記念講演会を拝聴し、余韻冷めやらぬまま、約230名が参加した盛大な祝賀会が催されました。開院に至るまで長い時間をかけ紆余曲折しながらこの日を迎えたというような話などを聞き、多くの関係者の尽力によって新診療棟が開院したことがうかがえました。広島にて医療に携わる関係者だけでなく、何と云っても病気で困っている患者の方々にとってこれまで以上に高度な医療を受けることのできるメリットは計り知れないものがあるでしょう。私自身は診療にはあまり縁のない立場なので、新診療棟の開院によって今後どのように広島の医療を支えていくかを直接見ることは少ないのですが、医歯薬保健学研究科で医療人育成に携わる者の一人として、この霞キャンパスの新たなシンボルの誕生と今後の成長により、ますます霞キャンパスが発展するものと大きな期待を抱いています。

平成25年9月 編集委員 松浪 勝義

表紙写真説明

平成25年9月20日（金）の広島大学病院新診療棟開院を前に、開院記念式典を9月1日（日）に行いました。写真は、新診療棟玄関前でのテープカットの様子です。（写真左から栗原主席副病院長、茶山病院長、越智前病院長、浅原学長、関文部科学省大臣官房文教施設企画部長、笠松広島県健康福祉局長、西村一般財団法人緑風会前理事長、戸澤一般財団法人緑風会理事長）



2013年(平成25年)12月発行

編集発行 広島大学大学院医歯薬保健学研究院・医歯薬保健学研究科広報委員会

住所 〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話 (082)257-1598(総務支援グループ)

FAX (082)257-5615

E-mail bimes-bucho-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.hiroshima-u.ac.jp/bimes>

印刷 株式会社ニシキプリント

研究院長・研究科長 小林 正夫

□広報委員会委員(○委員長)

- | | | |
|--------|---------------------------|-----------|
| ○坂口 剛正 | (医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門) | 教授(医学分野) |
| 酒井 規雄 | (医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門) | 教授(医学分野) |
| 杉田 誠 | (医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門) | 教授(歯学分野) |
| 松浪 勝義 | (医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門) | 教授(薬学分野) |
| 宮下 美香 | (医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門) | 教授(保健学分野) |
| 松原 昭郎 | (医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門) | 教授(医学分野) |
| 竹本 俊伸 | (医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門) | 教授(歯学分野) |
| 大瀧 慈 | (原爆放射線医科学研究所 放射線影響評価研究部門) | 教授 |
| 岡本 泰昌 | (医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門) | 准教授(医学分野) |
| 武知 正晃 | (医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門) | 准教授(歯学分野) |
| 猪川 和朗 | (医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門) | 准教授(薬学分野) |
| 片山 恵子 | (医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門) | 講師(医学分野) |
| 高橋 真 | (医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門) | 講師(保健学分野) |
| 竹中 和子 | (医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門) | 講師(保健学分野) |